

2022年度

履修の手引き



岩手県立大学

岩手県立大学盛岡短期大学部

Morioka Junior College Iwate Prefectural University

目 次

★ 学 年 暦

★ ディプロマ・ポリシー カリキュラム・ポリシー

カリキュラム概要図及び各年次の学び

★ 用 語 集

I 盛岡短期大学部の概要

1 生活科学科生活デザイン専攻.....	1
2 生活科学科食物栄養学専攻.....	2
3 国際文化学科.....	3

II 履修

1 はじめに.....	7
2 大学における学修について.....	8
3 授業.....	10
4 履修登録.....	12
5 試験.....	14
6 成績評価.....	16
7 卒業及び学位.....	18
8 他学科（専攻）履修.....	18
9 岩手県立大学間単位互換制度.....	19
10 語学科目における単位認定.....	20
11 文理融合データサイエンス教育.....	21
12 キャリア教育.....	22

III 授業科目一覧表

1 生活科学科	
• 共通科目（各専攻共通）.....	25
• 生活デザイン専攻専門科目.....	26
• 食物栄養学専攻専門科目.....	28
2 国際文化学科.....	31

IV 履修登録下書き表

令和4年度（2022年度） 学年暦

		日	月	火	水	木	金	土	週	学	事	
4 月								1 2	1	学年開始 前期開始		
		3	4	5	6	7	8	9	2	5日	英語プレイズメント・テスト	
		10	11	12	13	14	15	16	3	5日～8日	健康診断	
		17	18	19	20	21	22	23	3	6日	入学式、オリエンテーション・在学生ガイダンス（～12日）	
	24	25	26	27	28	29	30		3	8日～19日	前期履修登録期間【履修登録制限科目の登録:8日(pm)～12日(am)】	
										13日	前期授業開始	
										21日～22日	前期履修登録確認期間（25日履修登録確定）	
			2	2	3	3	2					
5 月		1	2	3	4	5	6	7	4			
		8	9	10	11	12	13	14	5			
		15	16	17	18	19	20	21	6	18日～24日	前期履修取消期間	
		22	23	24	25	26	27	28	7			
	29	30	31					8				
		5	4	3	3	4						
6 月					1	2	3	4	8			
		5	6	7	8	9	10	11	9			
		12	13	14	15	16	17	18	10			
		19	20	21	22	23	24	25	11	19日	開学記念日	
	26	27	28	29	30			12				
		4	4	5	5	4						
7 月							1	2	12	1日	七夕祭【調整中】	
		3	4	5	6	7	8	9	13	3日	オープンキャンパス	
		10	11	12	13	14	15	16	14			
		17	18	19	20	21	22	23	15			
	24	25	26	27	28	29	30	16				
	31											
		3	4	4	4	5						
8 月			1	2	3	4	5	6	17	3日～9日	前期授業等調整期間	
		7	8	9	10	11	12	13	10		授業予備日	
		14	15	16	17	18	19	20	11	11日～9月20日	夏季休業期間	
		21	22	23	24	25	26	27	12	15日～16日	全学一斉休業日（窓口閉鎖）	
	28	29	30	31				13	17日～23日	前期集中講義期間		
									14	24日～9月16日	学生センター窓口事務取扱時間短縮（～17時）	
									15	27日～28日	電気設備定期点検による停電	
		1	1	0	0	0						
		15	15	15	15	15						
9 月						1	2	3				
		4	5	6	7	8	9	10				
		11	12	13	14	15	16	17		16日	秋季学位記授与式、前期成績通知	
		18	19	20	21	22	23	24	17	20日～30日	後期履修登録期間【履修登録制限科目の登録:20日(pm)～21日(am)】	
	25	26	27	28	29	30		18	21日	秋季入学式		
									18	22日	後期授業開始	
		1	1	1	2	1						

注1 〔学期末試験〕は、各授業曜日末（15回）を目安としますが担当教員の指示に従ってください。

2 〔授業等調整期間〕とは、補講、補習及び試験に利用できる期間を言います。

3 〔集中講義〕は、原則として上記日程で行いますが、講師の都合により変更となる場合があります。

4 上記日程は変更になる場合もありますので、掲示等に注意してください。

5 : 授業日 : 学内立入制限日 : 授業等調整期間 : 集中講義期間 : 全学一斉休業日

	日	月	火	水	木	金	土	日	週	学	事
10月							1		1日	後期開始	
	2	3	4	5	6	7	8		19	4日～5日	履修登録確認期間（6日履修登録確定）
	9	10	11	12	13	14	15		20	7日	防災訓練【調整中】
	16	17	18	19	20	21	22		21	25日～31日	履修登録取消期間
	23	24	25	26	27	28	29		22	28日	休講
	30	31							23	29日～30日	大学祭【調整中】
			4	4	4	4	3				
11月									23		
	6	7	8	9	10	11	12		24		
	13	14	15	16	17	18	19		25		
	20	21	22	23	24	25	26		26		
	27	28	29	30					27		
		4	5	4	3	4					
12月									27	2日	夢灯り【調整中】
	4	5	6	7	8	9	10		28		
	11	12	13	14	15	16	17		29		
	18	19	20	21	22	23	24		30	12月24日～1月9日	冬季休業期間
	25	26	27	28	29	30	31				
		3	3	3	4	4					
1月									31	10日	月曜日授業（火曜日授業休講）
	8	9	10	11	12	13	14		32	12日	金曜日授業（木曜日授業休講）
	15	16	17	18	19	20	21		33	30日～2月3日	後期授業等調整期間
	22	23	24	25	26	27	28				
	29	30	31								
		3	2	3	3	3					
2月									6日	授業予備日	
	5	6	7	8	9	10	11		7日～10日	後期集中講義期間	
	12	13	14	15	16	17	18		7日～3月31日	春季休業期間	
	19	20	21	22	23	24	25		13日～3月31日	学生センター窓口事務取扱時間短縮（～17時）	
	26	27	28								
		15	15	15	16	15					
3月									17日	学位記授与式（四大、大学院、短大）、後期成績通知	
	5	6	7	8	9	10	11				
	12	13	14	15	16	17	18				
	19	20	21	22	23	24	25				
	26	27	28	29	30	31			31日	学年終了	

盛岡短期大学部ディプロマ・ポリシー

目指す人材像

岩手県立大学盛岡短期大学部では、幅広い教養と専門的な知識を有し、地域社会・国際社会の発展に寄与できる人材を輩出することを目指します。

生活科学科においては、人間生活の「衣」「食」「住」に関する専門知識と技能を有し、地域社会に貢献できる能力を身につけた人材の育成を目指します。

生活科学科生活デザイン専攻においては、住居と衣服を中心とした生活に関わるデザインについての専門知識と技能を有し、それらを柔軟かつ創造的に活用できる人材の育成を目指します。

生活科学科食物栄養学専攻においては、食に関する科学的知識と技能を身につけ、食生活をより良い方向へ支援する実践能力を兼ね備えた、専門職（栄養士）として社会に貢献できる人材の育成を目指します。

国際文化学科においては、世界の多様な文化や社会、交流の歴史を理解し、豊かで実践的なコミュニケーション能力と国際感覚とを併せもち、地域社会の発展や国際化に貢献できる人材の育成を目指します。

そして、本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学し、かつ、単位を修得した学生を、次に掲げる「学生が卒業までに身につけるべき能力」を備えた者とし、生活科学科にあつては学位「短期大学士（生活科学）」、国際文化学科にあつては学位「短期大学士（国際文化）」を授与します。

学生が卒業までに身につけるべき能力

<生活科学科>

【生活科学科生活デザイン専攻】

DP1: 幅広い教養と豊かな感性を備え、主体的に行動できる。（幅広い教養）

DP2: 住居と衣服を中心とした生活に関わるデザインを多様な視点から見つめ、豊かな生活を自らつくり出すことができる。（専門知識）

DP3: 二級建築士受験資格を取得して卒業する者においては、二級建築士取得のための基本的な知識と技能が身につけている。（専門知識）

DP4: 課題解決のための能力や実践力を身につけ、生活に関わる幅広い分野において、地域社会に貢献できる。（課題発見・解決能力）

【生活科学科食物栄養学専攻】

DP1: 幅広い教養と豊かな感性を備え、主体的に行動できる。（幅広い教養）

DP2: 食に関する知識を修得し、それを日常の生活において生かしていくことができる。（専門知識）

DP3: 栄養士として必要な専門知識や技能を身につけ、専門職として活躍できる。（専門知識）

DP4: 課題解決のための能力や実践力を身につけ、食に関する分野において、地域社会に貢献できる。（課題発見・解決能力）

<国際文化学科>

DP1: 幅広い教養と豊かな感性を備え、主体的に行動できる。（幅広い教養）

DP2: 西洋・アジア・日本の文化や社会及び交流の歴史を幅広く理解することを通して、国際感覚が身につけている。（専門知識）

DP3: 自らが生活する地域社会とそこにみられる様々な文化を深く理解し、地域の文化の振興、国際化に積極的に貢献できる。（社会への関心）

DP4: 豊かで実践的なコミュニケーション能力を身につけ、主体的に考え発言できる。（コミュニケーション能力）

盛岡短期大学部カリキュラム・ポリシー

盛岡短期大学部の教育内容及び教育方法

岩手県立大学盛岡短期大学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げた能力の育成のため、基盤となる科目（「共通科目」、「基盤科目」）と専門となる科目（「基礎専門科目」、「専門科目」）を中心としたカリキュラムを編成・実施し、学生が主体的・能動的に学ぶことができるよう、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。

<生活科学科>

生活科学科では、専攻共通の基盤となる科目、専攻別の専門となる科目からカリキュラムを構成しています。

専攻共通の基盤となる科目である「共通科目」は、本学科での学習活動や社会生活において不可欠な知識・技能や、幅広く豊かな教養に基づく総合的な判断力を育成することを目的とし、以下のような科目群を開講します。

CP1:本学科での学習活動において不可欠な知識・技能を育成するために、共通科目に「基礎科目」を開講します。(DP1)
CP2:社会生活を送る上で必要である幅広い教養と豊かな感性を身につけるため、共通科目に「教養科目」を開講します。(DP1)
CP3:グローバル化時代に必要な広い視野、異なる文化を持つ人々と共に生きていく能力を育成するため、共通科目に「外国語関係科目」を開講します。(DP1)

【生活科学科生活デザイン専攻】

生活科学科生活デザイン専攻の専門となる科目は、住居と衣服を中心とした生活に関わるデザインについての専門知識と技能を多面的かつ体系的に学ぶことができるよう、「基礎専門科目」と「専門科目」で構成されています。

CP4:生活に関わるデザインを学ぶ上で基礎となる知識と技能を修得するため、「基礎専門科目」を開講します。専門科目の内容を理解するために必要な知識や考え方について幅広く学びます。(DP1、DP2、DP3)

CP5:生活に関わるデザインを実践する上で必要となる専門的な知識と技能を修得するため、「専門科目」を開講します。

住居のデザイン、衣服のデザインを多様な視点からとらえて思考できるようにするため、それぞれの分野についての専門的な知識を横断的に学びます。また、豊かな感性を身につけ、それを生かしたアイデアを表現するために必要な技能の修得を目指します。

さらに、少人数・学生主体で行われる「卒業研究」では、教員の専門研究領域に応じたテーマの研究を通して、課題発見・解決能力や実践力などを育成します。(DP2、DP3、DP4)

なお、住居分野の科目を全て単位修得することにより、二級建築士の受験資格を取得できる内容となっています。

【生活科学科食物栄養学専攻】

生活科学科食物栄養学専攻の専門となる科目は、栄養や食に関する専門知識と技能を修得することを目的として、「基礎専門科目」と「専門科目」で構成されています。

CP4:現代人の食生活や環境、生命と健康について学ぶため、「基礎専門科目」を開講します。専門科目を履修するために必要な知識や考え方について学びます。(DP2、DP3)

CP5:栄養士に必要な知識や技能を修得するため、「専門科目」を開講します。身体の構造や機能、食品の化学的性質、栄養学の基礎や応用、栄養教育、集団給食の管理・運営などの講義や実験・実習を通して、栄養士として人々の食生活を支える知識と技能を修得し、科学的思考に基づく実践力の育成を目指します。

少人数・学生主体で行われる「卒業研究」では、教員の専門研究領域に応じたテーマの研究を通して、課題発見・解決能力や実践力などを育成します。(DP2、DP3、DP4)

<国際文化学科>

国際文化学科では、基盤となる科目（「基盤科目」）、専門となる科目（「基礎専門科目」、「専門科目」及び「実践科目」）からカリキュラムを構成しています。

国際文化学科の基盤となる科目は、「教養科目」と「キャリアデザイン科目」で構成されています。専門科目の学習に必要な基礎的な知識を身につけるとともに、社会生活を営む上で不可欠な知識や判断力などを培います。

CP1:「教養科目」では、人間への理解、社会への理解などを通して、実り豊かな人生を創造していくために欠かすことのできない幅広い教養と豊かな感性を身につけます。また、専門科目での文化理解に必要とされる基礎的な視点を養います。(DP1、DP2、DP3)

CP2:「キャリアデザイン科目」では、自己についての理解を深め、人生観・職業観を確立することをねらいとし、自らの人生設計を考える科目を開講します。(DP3、DP4)

国際文化学科の専門となる科目は、実践的なコミュニケーション能力を身につけるとともに、世界の多様な文化や社会、交流の歴史を理解するために、「基礎専門科目」、「専門科目」及び「実践科目」から構成されています。

CP3:「基礎専門科目」では、専門科目の履修に備え、現代を取り巻く文化や社会を理解するとともに、プレゼンテーション、言葉による表現能力といったコミュニケーションスキルの向上を目指します。(DP2、DP4)

CP4:「専門科目」では、「西洋」「アジア」「日本」の文化及びそれらを横断的に把握する「比較文化」の各文化領域で構成されており、それぞれの文化を学びます。

履修の集大成として「卒業研究」を作成します。「卒業研究」は、各自が提出したテーマに基づいてそれぞれ専門とする教員のもとで、少人数・学生主体で調査研究を進めます。(DP2、DP3)

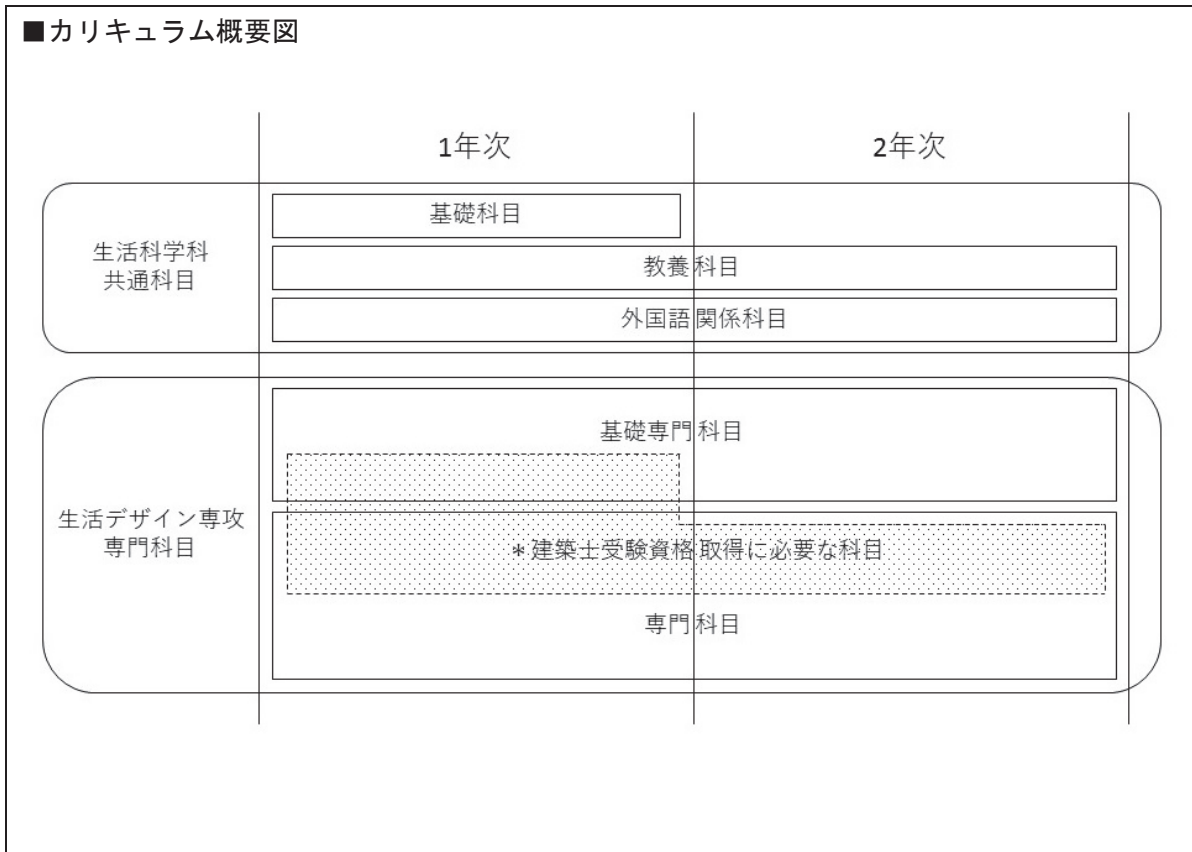
CP5:「実践科目」では、社会で必要とされる実践的な知識と能力を身につけます。(DP2、DP3、DP4)

カリキュラム概要図及び各年次の学び

<生活科学科>

生活科学科では、専攻共通の基盤となる科目、専攻別の専門となる科目からカリキュラムを構成しています。専攻共通の基盤となる科目である「共通科目」は、本学科での学習活動や社会生活において不可欠な知識・技能や、幅広く豊かな教養に基づく総合的な判断力を育成することを目的としており、「基礎科目」「教養科目」「外国語関係科目」の3つの科目群によって構成されています。(DP1)

【生活科学科生活デザイン専攻】



生活科学科生活デザイン専攻の専門となる科目は、住居と衣服を中心とした生活に関わるデザインについての専門知識と技能を多面的かつ体系的に学ぶことができるよう、「基礎専門科目」と「専門科目」で構成されています。住居のデザイン、衣服のデザインを多様な視点からとらえて思考できるようにするため、それぞれの分野についての専門的な知識を横断的に学びます。また、豊かな感性を身につけ、それを活かしたアイデアを表現するために必要な技能の修得を目指します。なお、住居分野の科目を全て単位修得することにより、二級建築士の受験資格を取得できる内容となっています。(DP1、DP2、DP3、DP4)

2年間という短い就学期間のため、それぞれの科目を各年次で履修しますが、1年次では共通科目と基礎専門科目のウェイトが高く、2年次では専門科目のウェイトが高くなっています。

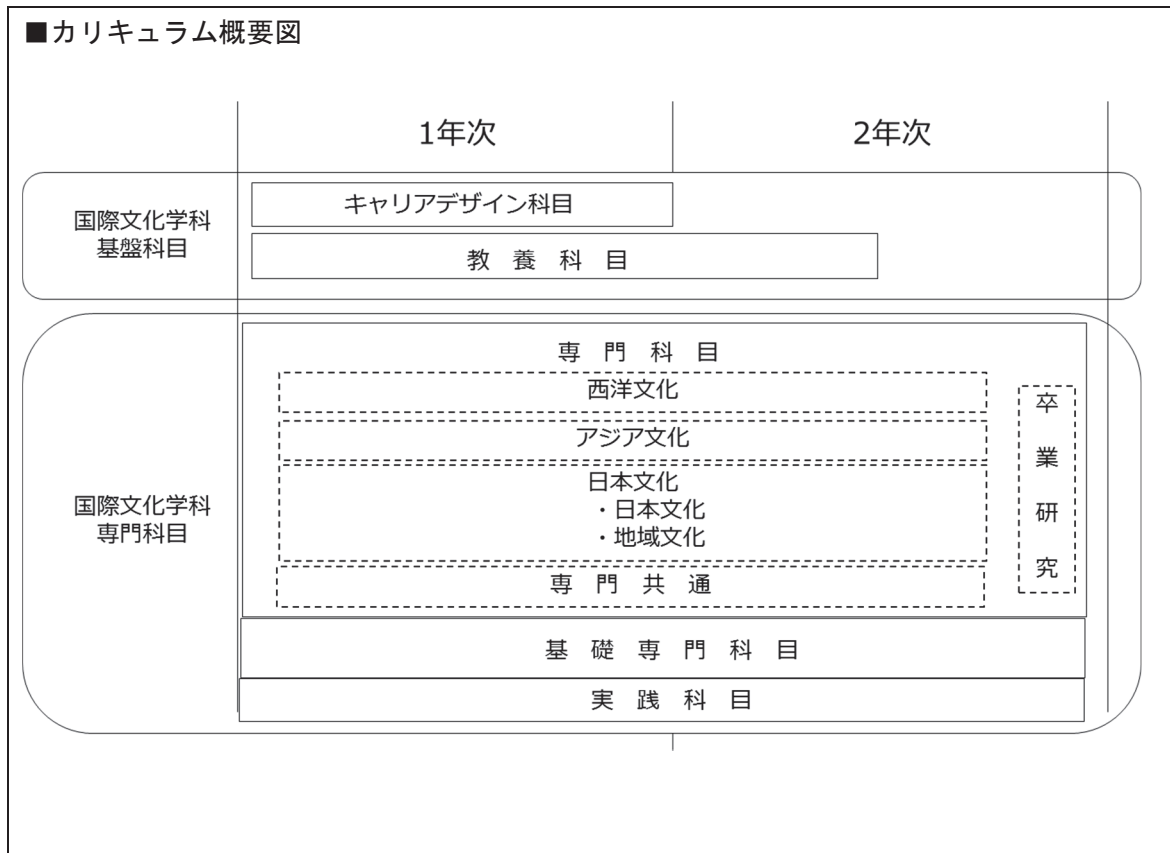
【生活科学科食物栄養学専攻】



生活科学科食物栄養学専攻の専門となる科目は、栄養や食に関する専門知識と技能を修得することを目的として「基礎専門科目」「専門科目」で構成されています。「基礎専門科目」では「専門科目」の履修に必要な知識や考え方を学びます。「専門科目」では、社会生活と健康、人体の構造と機能、食品と衛生、栄養と健康、栄養の指導、給食の運営の6領域の講義や実験・実習を通して、栄養士として人々の食生活を支える知識と技能を修得し、科学的思考に基づく実践力を養います。なお、規定の科目と単位を修得することにより栄養士の資格を取得できます。(DP1、DP2、DP3、DP4)

2年間という短い就学期間のため、それぞれの科目を各年次で履修しますが、1年次では共通科目と基礎専門科目のウェイトが高く、2年次では専門科目のウェイトが高くなっています。

<国際文化学科>



【1年次】

1年次は、教養科目、基礎専門科目、キャリアデザイン科目が中心となります。教養科目では、人文社会科学の基礎的な視点を養います（DP1、DP2、DP3）。基礎専門科目では、演習の基礎的スキルを学ぶ授業のほか、日本語・英語の授業が中心となっています。その他、海外研修の授業も重要なものとして位置付けられています（DP2、DP4）。

キャリアデザイン科目は通年で開講され、人生観・職業観を確立するための重要な科目です（DP3、DP4）。

専門科目では、第二外国語のほか、〇〇の歴史、〇〇の文化と思想といった授業が中心となり、専門分野の概要を学びます（DP2、DP3）。

実践科目では、外国語の授業のほか、情報処理やビジネス実務に関する演習が中心となります（DP2、DP3、DP4）。

【2年次】

2年次は、1年次と比較すると専門科目が中心になります。教養科目は2年前期で終わります。基礎専門科目も、英語を除くと前期で終わります。ですが、この「総合英語」の授業は1年次同様必修となっており重要な科目です（DP2、DP4）。

専門科目では、〇〇社会論、〇〇文化論、〇〇研究法、〇〇演習といった、専門性に特化した演習授業が中心になります。履修の集大成として2年後期に「卒業研究」を作成することが必修となっています（DP2、DP3）。

実践科目では、英語の科目と小論文のスキルを向上させる授業が行われます。

用語集

オムニバス方式 (Omnibus)	ある一つのテーマに対し、複数の教員がそれぞれ独立した講義等を行い、一つの授業科目として成立させる授業方式。	
学期	学校において教授、学習、校務等の整理の便宜のために学年をいくつかに分けた期間。学則により定めており、本学の場合には前期と後期の2期制としている。なお、1年を数回の学期に区分し、各学期毎に授業を完結し成績評価を行う制度を「セメスター制」という。	
CAP制度 (Credit Cap System)	履修科目の登録に際し、学期ごとに履修することができる単位数に上限を定める制度。学習すべき授業科目を精選することにより十分な学習時間を確保し、授業内容の十分な理解を進めることを目的とする。本学では、四大においてこの制度を導入している。	
カリキュラム・ポリシー (CP) (Curriculum Policy)	教育課程の編成方針。各課程教育において、ディプロマ・ポリシーで定めた達成目標の実質化・体系化を図るための方策・手段。	
コンソーシアム (Consortium)	複数の個人、企業、団体、政府(又はこれらの任意の組合せ)により組織される団体。高等教育機関においては、近隣地域に立地する複数の大学等により高等教育及び学術研究の振興、地域社会への寄与等を目的として組織されることが多い。 岩手県では平成20年に「いわて高等教育コンソーシアム」が設置され、共同シンポジウム、構成大学間の単位互換、図書館の相互利用等の事業を実施している。加盟校は岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学、富士大学、岩手医科大学、岩手県立大学盛岡短期大学部、岩手県立大学宮古短期大学部、盛岡大学短期大学部、放送大学岩手学習センター、一関工業高等専門学校 の10校となっている。	
在学年限	在学することができる年限。本学においては、学部の学生は休学期間を除き8年(岩手県立大学学則第8条)。盛岡短期大学部の学生は4年(岩手県立大学盛岡短期大学部学則第8条)。研究科博士前期課程の学生は4年、博士後期課程の学生は6年(岩手県立大学大学院学則第6条)。	
試 験	期末試験	学期末までに期間を定めて行うが、授業科目によっては、随時行われる試験。 試験の方法(筆記、口述発表、論文・レポート提出、実技又は作品制作等のいずれか、若しくはこれらの併用による)は、当該授業科目の各担当教員が決定し、実施している。
	追試験	所定の試験に欠席した者に対する試験。原則として行わないが、病気その他やむを得ない事情がある場合に限り、願い出により追試験を受けることができる(岩手県立大学履修規程第8条)。
	再試験	試験を受験して不合格になった者に対する再度の試験。原則として行わないが、やむを得ない事情により教授会で認められた場合には、願い出により再試験を受けることができる(岩手県立大学履修規程第9条)。
	不正行為	試験(期末試験、追試験、再試験)において不正行為をした者は、学則の規定による懲戒処分のほか、履修規程の規定による成績「不可」の措置がある。
再履修	単位を修得することができなかった(「不可」の評価を受けた)科目を、次学期以降に改めて履修すること。再履修により「可」以上の評価を受けた場合には、GPAの算定において前学期以前の「不可」の評価は除外される。	
GPA制度 (Grade Point Average)	学生毎の成績を履修単位当たりの平均値により表す制度。成績が数値化されることにより、学生の学習意欲の向上、厳格な成績評価、適切な修学指導への効果等を目的としている。 本学においては、5段階の評価(秀、優、良、可、不可)にそれぞれ4～0のGP(グレードポイント)を与え、この点数の履修単位当たりの平均値を算出するものとしており、対象となる科目は学部により異なる。学期GPA、年度GPA、通算GPAの3種類が算定される(岩手県立大学グレードポイントアベレージ制度運用規程)。	
自由聴講科目	自由選択により履修することができるが、卒業に必要な単位として算定されない科目。	
修業年限	卒業(修了)するために必要となる、学校に在学する年限。本学の場合は、学部は4年(岩手県立大学学則第7条)、盛岡短期大学部は2年(岩手県立大学盛岡短期大学部学則第7条)、研究科博士前期課程は2年、博士後期課程は3年(岩手県立大学大学院学則第5条)。	
集中講義	通常の授業とは別に、主として他大学等の教員により特定の日に集中して行う授業。夏季・春季休業期間中に「集中講義期間」が設けられる。	

授業等調整期間	正規の授業期間内に休講となった科目の補講又は学期末の試験を集中的に実施する期間。この期間は特別な時間割が作成され、掲示により周知される。	
シラバス (Syllabus)	授業計画の詳細を示す資料。授業の全体概要、各回の授業内容、成績評価の基準及び方法、教科書・参考書籍等が示される。本学においては、事務管理公開システム又は大学ホームページから参照することができる。	
先修条件	ある授業科目を履修するに当たって、その前に履修しておく必要がある別の授業科目その他の必要な条件(岩手県立大学履修規程第11条)。	
選択科目	自由選択により履修することができるが、その中から卒業に必要となる所定の単位を修得しなければならない科目。	
卒業(修了)要件	卒業(修了)するための要件。大学の場合には、4年以上在学し、124単位以上を修得するものとされている(大学設置基準第32条)。短期大学の場合には、2年以上在学し、62単位以上修得するものとされている(短期大学設置基準18条)。大学院の場合には、博士前期課程は2年以上在学し、30単位以上修得、かつ、修士論文の審査及び試験に合格すること、博士後期課程は大学院に5年(修士課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、博士論文の審査及び試験に合格することとされている。(大学院設置基準第16条、第17条)。 修得が必要となる授業科目及び単位数の内訳については、学則別表に学部・研究科毎に定められている。	
単位互換	短期大学、四年制大学や大学院が相互に他大学の学生の聴講を認め、学生が在学以外の大学の授業に出席し所定の試験に合格した場合には、その結果を在学における単位として認定する制度。	
単位制度	単位を基準として学習量を測る仕組み。1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容で構成することが標準とされており、授業の方法に応じた単位の計算方法が次のとおり定められている(大学設置基準第21条第2項)。 ①講義及び演習:15時間～30時間の授業をもって1単位 ②実験、実習及び実技:30時間～45時間の授業をもって1単位 ※卒業論文、卒業研究、卒業制作等については、これらに必要な学修等を考慮して定められる。	
長期履修学生制度	学生が職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを認める制度(大学院設置基準第15条、大学設置基準第30条の2の準用)。本学では、大学院においてこの制度を導入している(岩手県立大学大学院学則第13条の3)。	
教育アシスタント	ティーチング・アシスタント(TA) (Teaching Assistant)	教育の補助業務を行う学生。大学院生を対象として、学部学生等に対する助言や実験・実習・演習等の授業補助業務を行わせることにより、大学院生への教育トレーニング機会の提供と、手当の支給による経済的支援を目的としている。
	スチューデント・アシスタント(SA) (Student Assistant)	学士課程の学生を授業の補助業務に携わらせる場合、TAとは区別してスチューデント・アシスタント(SA)という。
ディプロマ・ポリシー(DP) (Diploma Policy)	学位授与の方針。卒業(修了)までにどのような能力の習得を目指すのか、学生が達成すべき具体的な学習成果を設定したもの。	
ピア・サポート (Peer Support)	ピア(仲間)同士によりサポート(支援・支え合い)を行う仕組み。大学においては、生活面や学習面等において先輩や友人が相談相手となる等の制度をいう。	
必修科目	卒業要件として必ず修得しなければならない科目。	
プレイズメント・テスト (Placement Test)	習熟度別クラス分けのための試験。本学においては「英語基礎演習」・「英語実践演習」科目において受講者の習熟度水準に応じた授業を行うために実施している。	
履修制限科目	教育効果の観点、又は教室の収容定員の関係上、履修者の人数制限を設ける科目。本学においては、他の科目とは別に履修登録日(時間)を設け、システムによる抽選で履修者を決定する。	
履修登録	各学期の初め(年2回)に、学生自らが履修しようとする授業科目を登録する必須の手続。この手続を行わずに授業や試験を受けても単位を修得することはできない。	
履修取消制度	履修登録科目確定後、「授業の内容が自分の関心と異なっていた」「授業についていけない」等の事情が発生した場合に、履修放棄によるGPAの低下を防ぐための措置として、履修登録の取消しをすることができる期間。取消しのみ認められ、新たな科目の登録をすることはできない(岩手県立大学履修規程第4条の2)。	

I 盛岡短期大学の概要

1 生活科学科生活デザイン専攻

1 教育理念・教育目標

未来に向けての人間生活の最大の課題のひとつは、人間とそれを取り巻く環境との持続的関係の構築であり、地球規模から個人生活までのそれぞれのレベルでの対応が求められています。とりわけ、家族や地域規模での環境に配慮したライフスタイルを意識的に築いていくことが不可欠です。またさらに、近年の環境問題や次世代に受け継ぐエネルギー問題は、住環境と衣環境を融合して考える必要性を提示しています。

生活デザイン専攻では、こうした社会問題に対応できる問題解決能力に優れた人材の育成、ならびに、幅広い教養に関する知見をも融合し、もって現在よりもさらに多様化が予測される将来の生活を、自ら考え、そして作り出せる人材の養成を教育理念としています。

また、具体的な教育目標として、人間生活の「住」と「衣」に関する高度な技術と見識を持って、さまざまな社会問題を解決し、かつ地域に対する貢献をなしうる即戦的能力を持った人材の育成を目指し、社会が要請する諸資格を得られるような「実学」をも重視する教育を行います。

2 教育研究内容・特色

生活デザイン専攻のカリキュラムは、共通科目、基礎専門科目、専門科目の3つの科目群から構成されています。

共通科目は、高度化する各専門分野の効果的・効率的な理解・応用に役立つ基礎的な技術の修得を目指すとともに、社会生活を送る上で必要となる豊かな人間性と幅広い教養を身につけることを目標とします。

基礎専門科目と専門科目では、人間生活とそれを取り巻く生活環境としての「住」環境と「衣」環境とを総合的に理解するとともに、我々の生活自体が環境に及ぼす影響や今後の望ましい生活環境のあり方を考えるため、「住」と「衣」を中心とした科目、および人間社会の理解や高齢化社会に向けた科目の充実を図っています。

それぞれの科目では、講義と演習、実験、実習を通じ、「住」と「衣」について科学的かつ多角的、総合的にとらえながら実生活へ応用できることを目指します。

特に住関連では、所定の単位を修得すれば、国家資格である二級建築士と木造建築士の受験が可能となっています。(卒業後の実務経験は不要)

2 生活科学科食物栄養学専攻

1 教育理念・教育目標

『食習慣は健康づくりの基本』といわれています。食物栄養学専攻では、まず、自らが生涯にわたって健康で活動的な充実した人生を送ることができるように、健康科学の専門的な知識・技術を修得するとともに、広く食について学び、日々の生活に生かすことのできる能力を養う教育を行っています。

少子高齢社会の進行にともない、予防を重視した健康増進対策の必要性が高まっています。その中でも、生活習慣の1つである「食生活」の健康への影響は大きいと言われています。そのため、「食」による「健康の維持・増進」や「食教育」に関する専門知識と応用能力を持った人材が求められています。

食物栄養学専攻では、「社会生活と健康」、「人体の構造と機能」、「食と健康」について学ぶことを通して、人と食に関する科学を基礎から応用まで体系的に理解していきます。

授業は少人数体制で講義・演習・実験・実習をおこない、教員と学生、あるいは学生相互間で活発なコミュニケーションが取れるようにしています。さらに、整備された情報環境のもと、岩手県立大学各学部との単位互換制度を活用して、より深く学びたいと思う分野の科目を履修することもできます。

栄養士免許を取得するために必要な科目を中心にカリキュラムを組み、より良い方向へ食生活を支援する知識と技術を備えた社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

2 教育研究内容・特色

食物栄養学専攻のカリキュラムは、共通科目、基礎専門科目、専門科目の3つの科目群で構成されています。卒業に必要な科目のほかに、所定の科目を履修すると栄養士の資格を取得することができます。

共通科目は、高度化する各専門分野の効率的・効率的な理解・応用に役立つ基礎的な技術の修得を目指すとともに、社会生活を送る上で必要となる豊かな人間性と幅広い教養を身につけることを目標とします。

基礎専門科目は、現代人の食生活や環境について理解するための科目、及び、生命と健康について学ぶ上で基礎となる科目で構成されています。専門科目を履修する前に必要な知識や考え方について学びます。

専門科目は、栄養士の免許を取得するために必要な科目を中心に構成されています。おもに身体の構造や機能、食品の化学的性質を知り、食品に含まれる栄養素の働きなどを学び、「食による生活習慣病」を予防し、ライフステージや病態にそった栄養管理ができる能力と技術を修得するための科目です。また、栄養学の基礎や応用、栄養教育、特定給食施設の運営・管理などの講義や実習を通して、栄養士の業務に関わる知識と技術について学びます。さらに、ゼミ形式で行われる「卒業研究」では、教員の専門教育研究領域ごとに、各自が選んだテーマの研究を通して、計画力、問題解決能力、実践力などを培います。

卒業後、3年間の栄養士の実務を経験した後に管理栄養士国家試験を受験することができます。

3 国際文化学科

1 教育理念・教育目標

今、私たちは、自らが拠って立つ地域にしっかりと足を据え、同時に自らと異なる文化思想をもつ他者の存在に十分心と理解ををとどかせた上で、他者と正しくコミュニケーションできる能力を養うことが求められています。自他の文化理解の上に立って、自らと自らの住む地域文化を日本の他の地域、さらには諸外国へ発信していく実践的方法を身につける、それこそが国際化の時代を生きる人間の姿だといえます。またそうした能力は、社会生活の上においても、他者への思いやりと理解という形で、いかに発揮されます。

国際文化学科では豊かな人間性と国際感覚とを併せ持った、社会に価値ある人材を育成するために、次の三点を教育目標として掲げています。

- 西洋・アジア及び日本の多様な文化や交流の歴史を幅広く理解し、これを尊重する豊かな国際感覚を身につけた、良識ある人材を育成する。
- 自らが生活する地域とそれが持つ文化の諸相をより深く理解し、地域文化の振興や地域の国際化に積極的に寄与する人材を育成する。
- 豊かで実践的なコミュニケーション能力を身につけ、主体的に考え発言できる自立した人材を育成する。

2 教育研究内容・特色

国際文化学科のカリキュラムは、教養科目、キャリアデザイン科目、基礎専門科目、専門科目、実践科目で構成されています。

《教養科目》

それ自体が独立した科目群であるとともに、専門科目での文化理解に必要とされる基礎的な視座を養います。人間への理解、社会への理解などが総体的に促されるとともに、実り豊かな人生を創造していく上で欠かすことのできない知性と教養が磨かれます。

《キャリアデザイン科目》

自己についての理解を深め、人生観・職業観を確立することをねらいとし、自らのキャリアをデザインできるようにするための科目です。

《基礎専門科目》

日本、地域及び諸外国の文化に関する専門科目の履修に備え、文化に対する幅広い思考力、判断力を養うとともに、研究調査、プレゼンテーション、言葉による表現能力といったコミュニケーションスキルの向上を目指す科目を多く配置し、少人数クラスによる実践的指導を行います。

《専門科目》

「西洋」「アジア」「日本」の各文化領域およびそれらを横断的に把握する「比較文化」の各領域の科目から構成されています。これら専門科目では、自らの興味と問題意識に関わる文化領域を核としながら、それ以外の各領域の科目を横断的に履修することが可能となっています。また、概論から研究法、さらには多様な演習授業へと、学習の進展に従って段階的に履修できるように工夫されており、卒業研究とも連動させながら、文化に対する思考の実践的な深化を可能とします。

《卒業研究》

履修の集大成として「卒業研究」を作成します。「卒業研究」は、各自が提出したテーマに基づいてそれぞれ専門とする教員のもとで、他の文化領域と有機的連関を図りながら、ゼミ形式で調査研究を進めるもので、2年次進級とともに開始されます。

《実践科目》

社会での実践運用に備え、情報処理、ビジネス実務、ビジネス英語などの科目が開設されています。

II 履修

1 はじめに

1. 履修の手引き

本書「履修の手引き」は、皆さんが本学で学業を進めていく上で必要な、履修に関する事項を学則や履修規程等に基づいて編集したものです。

卒業するまで常に手元に置いて機会あるごとに参照し、正しい認識のもと履修計画に役立ててください。

2. 掲示・連絡

大学では、学生への重要な通知や連絡及び、履修や授業に関わる情報は、**本部棟・共通講義棟間通路と、各学部棟入口にある電子掲示ボードや事務管理公開システム**により通知します。授業や試験等に関わる重要な情報ですので、必ず毎日確認してください。掲示や通知された事項は学生全体に周知されたものとみなされます。

また、学生個人宛にメールで連絡を行うこともあります。メールチェックも定期的に行うようにしてください。

掲示やメールによる連絡を見落とししたことにより不利益を受けた場合でも、自己責任となりますので十分注意してください。

3. 相談窓口

履修や成績に関することで分からないことがある時、呼び出しを受けた時は、本部棟1階の学生センターにお問い合わせください。

4. Web学生便覧

本書のほか、岩手県立大学ホームページ内「Web 学生便覧」には、履修関係の重要な情報を随時掲載しています。定期的に確認してください。

また、各種証明書の申請用紙をダウンロードできます。

岩手県立大学ホームページ内「Web 学生便覧」アドレス

<https://www.iwate-pu.ac.jp/living/gslife/index.html>

- ・学年暦
- ・時間割
- ・シラバス
- ・学則、履修規程などの規程集
- ・各種様式(証明書交付願、欠席届など)

(参考)履修に関する諸規程

- ・岩手県立大学盛岡短期大学部学則
- ・岩手県立大学盛岡短期大学部学位規程
- ・岩手県立大学盛岡短期大学部履修規程
- ・岩手県立大学グレードポイントアベレージ制度運用規程

Web学生便覧
QRコード



2 大学における学修について

1. 履修とは

大学では、学位修得(卒業)に向けて必要な科目を選択し、授業を受けます。卒業までには多くの科目の授業を受ける必要がありますが、それらの科目を各自の目標に応じて習い修めていくことが「履修」です。

履修は、本学の学則や履修規程等に沿って行われます。その中で、どの授業を履修するのか、学期毎の時間割はどうするのかなど、大学において何をどのように学んでいくのかを決めるのは学生自身ですので、一人一人がよく考えて履修を進める必要があります。

2. 履修計画

大学における科目履修は、自らの責任において履修計画を立て、卒業に必要な単位を自主的に修得していくことに特徴があります。

履修の方法を誤ると、進級や卒業、資格取得に影響を及ぼすことがあります。以下の資料を熟読し、しっかりと履修計画を立ててください。

- ・授業時間割表(Web 学生便覧)
- ・授業科目一覧表(履修の手引き掲載)
- ・シラバス(事務管理公開システムから参照)

また、毎年4月に行われる各種ガイダンスは、履修関係の重要な情報を得る機会ですので必ず出席してください。

3. シラバス

シラバスとは、授業の内容や進め方などを記した授業計画書のことです。履修する科目の選択、授業の受講にあたり、大切な情報が記載されています。シラバスをよく読むことにより、その科目に関する具体的なイメージを持つことができるとともに、各自の履修計画における各科目の位置づけを把握することもできます。

シラバスは年度毎に更新され、前期開講科目と後期開講科目のいずれも年度の開始時には公開されます。履修登録前には、当該学期に開講される科目のシラバスに必ず目を通し、履修する科目選択の参考にするとともに、その授業の学修目標をしっかりと理解した上で授業にのぞむことが重要です。

シラバスの記載内容

- ・授業科目名(英語名)
- ・担当教員
- ・開講期間
- ・配当年
- ・正課学生以外の受講
- ・教育課程
- ・授業形態
- ・資格対応
- ・授業のねらい・概要
- ・キーワード
- ・学修目標
- ・授業の位置付け
- ・授業の計画
- ・教科書【学生が必ず準備するもの】
- ・参考書等
- ・授業の形式
- ・成績評価の方法
- ・授業前、授業後の学修
- ・履修にあたっての留意点
- ・実務経験を生かした授業内容



4. 単位制度

単位とは学修時間を表す名称で、個々の授業科目について所定の時間を履修し、試験その他の方法により合格と判定されたときに与えられます。

単位数は授業科目ごとに定められ、卒業に必要な単位数(卒業要件単位数)は、学部ごとに定められています。

各授業科目の単位数は、**1単位の授業科目を教室内、教室外を合わせて45時間の学修を必要**とする内容で構成され、次の基準により算定されます。

講義、演習	15時間～30時間の範囲内で定める時間の授業をもって1単位とする。
実験、実習、実技	30時間～45時間の範囲内で定める時間の授業をもって1単位とする。
卒業研究・制作等	必要な学修等を評価して所定の単位を与える。

自学自習について

単位を修得するためには、教室内の学修(授業)だけでなく、教室外の学修(自学自習)を合わせた十分な学修が必要です。担当教員の指示に従いながら、主体的に取り組みましょう。

【参考】例えば、2単位修得するためには…

1単位45時間の学修が必要ですから、2単位の講義科目で単位を修得するためには90時間の学修が必要ということになります。90時間の内訳は、授業15回で30時間(1回の授業時間90分は2時間として換算します)、残り60時間がその授業に対する自学自習に要する時間です。

	1 授業あたりの学修時間	1 学期当たりの授業	合計時間数
授業	2時間	15回	30時間
自学自習	4時間	15週	60時間
計			90時間

1回の授業につき、**4時間の自学自習が必要!**

⚠ 授業を受ける際の注意「情報モラル、著作権の尊重」について

以下のような行為は、授業(演習、実習を含む)の妨害や著作権の侵害、他者への迷惑行為になることがあり、場合によっては、岩手県立大学学則第37条3項4号に該当し、懲戒(訓告、停学および退学)を受ける可能性があります。厳に慎んでください。

～ 行為の一例 ～

- ◆ オンライン会議システムのURLや認証情報を、他者に公開すること。
- ◆ 担当教員の許可無く、次のような行為をすること。
 - ・ 授業で提供された資料等を、他者に配布、公開すること。
 - ・ 授業の様子を撮影、録音すること。
 - ・ 授業の様子を撮影、録音したデータを、他者に配布、公開すること。

授業は、担当教員の注意や指示に従い受講してください。

【参考：岩手県立大学盛岡短期大学部学則 第36条】
学長は、この規則その他の規程に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした学生を懲戒することができる。
3 退学の処分は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。
(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者



3 授業

1. 授業時間(滝沢キャンパス)

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

2. 授業の実施場所

授業は共通講義棟や各学部棟などで行われます。

それぞれの授業の実施場所は、授業時間割で確認してください。教室の場所が分からない時は、「**学生便覧**」のキャンパスガイドで調べることができます。

3. 教室変更

授業の担当教員の判断により教室を変更することがあります。

4. 休講

大学の行事又は授業担当教員の公務、出張、病気等の理由により授業ができなくなった場合は、休講になります。

教員の事前指示や休講・教室変更の掲示がなく、授業開始時刻から30分経過しても教員が教室にこない場合には、学生センターに確認し、指示を受けてください。

5. 補講

休講となった授業に対しては、原則として補講が行われます。

6. 授業の欠席

傷病、忌引等のため授業を欠席する場合の取扱い(届出が必要かどうか、提出方法をどうするか、届出理由を成績評価に考慮するか否か等)は、各学部等や授業担当教員の判断に任されています。

シラバスやガイダンス等で各授業での届出の要否・方法を確認のうえ、届出の必要な授業のみ欠席届を提出してください。

(注) メールによる提出については「Web 学生便覧」に標準様式を掲載しています。

<https://www.iwate-pu.ac.jp/living/gslife/info/form.html>

標準様式
QRコード



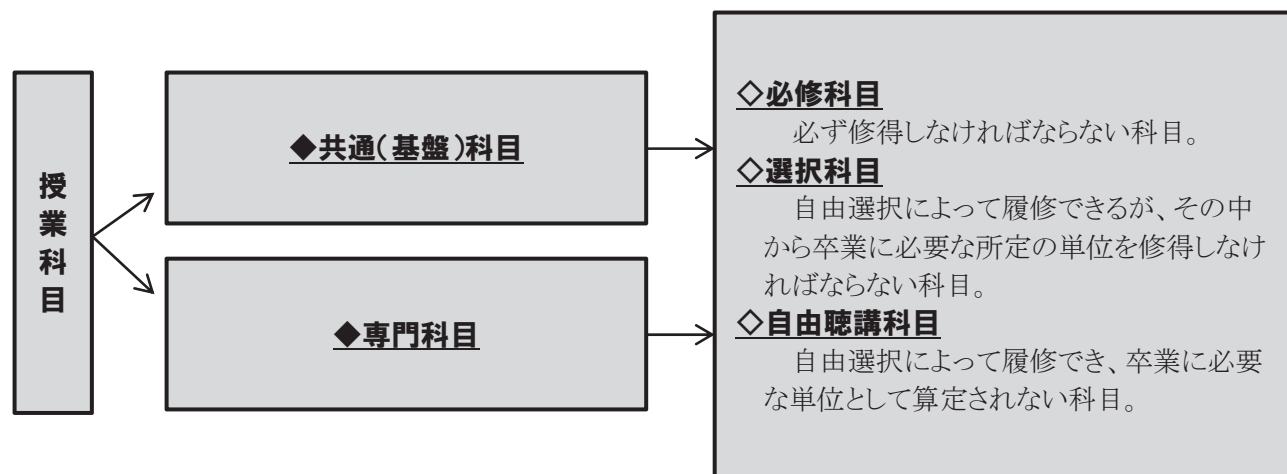
7. 特別な授業期間

通常の授業期間の他に、下記のような授業期間が設けられています。

集中講義期間	一定期間に集中して授業を行う授業科目があります。集中講義は、主に8月中旬・下旬、2月中旬に行われます。
授業等調整期間	通常の授業期間内に休講となった科目の補講や、試験が実施される期間。この期間の授業等は、通常とは違う時間割で行われます。

8. 授業科目の分類

授業科目は、次のように分類されます。



4 履修登録

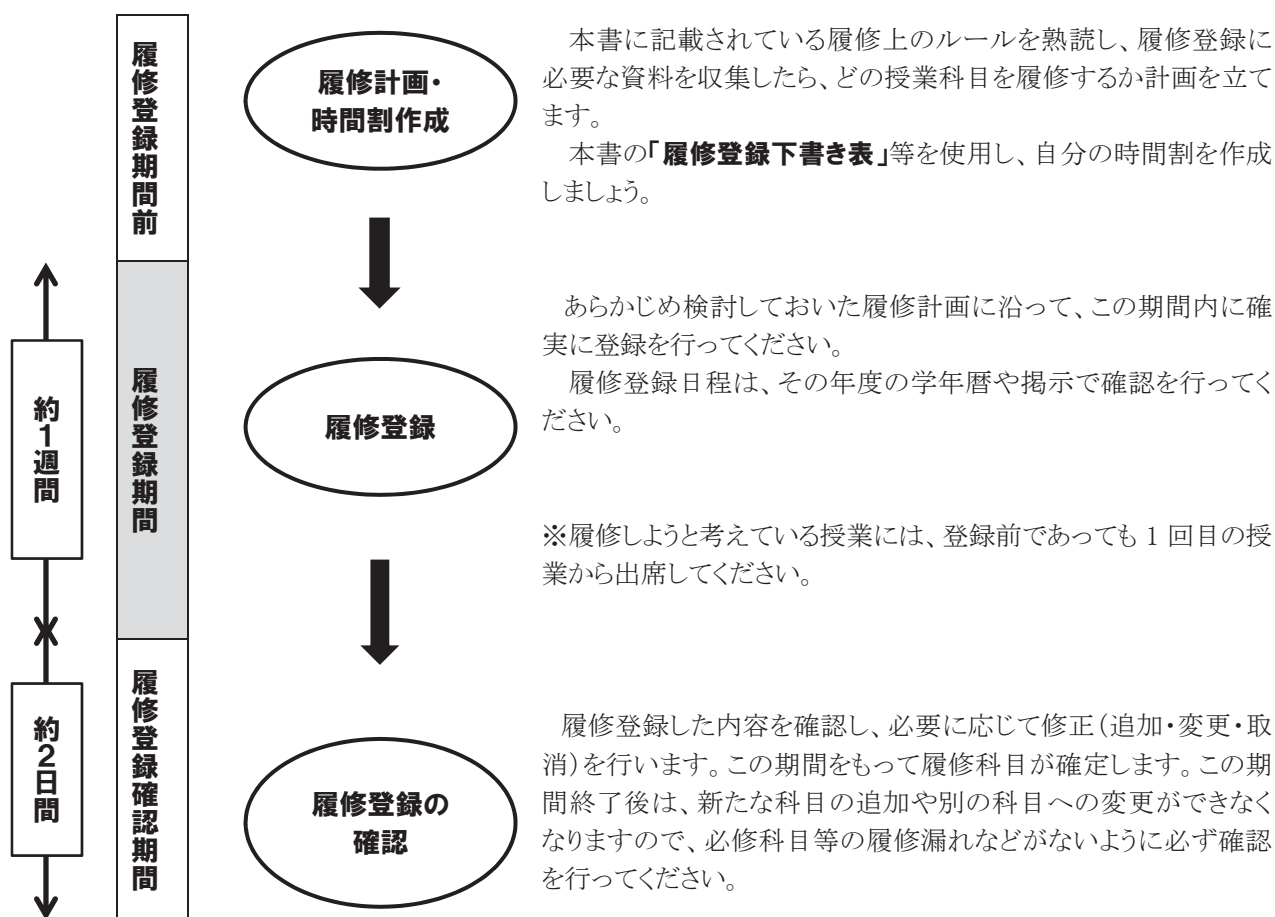
1. 履修登録について

履修登録は、毎学期の初めに、学生自らが履修しようとする授業科目を登録する必須の手続です。学生は、情報端末により、事務管理公開システムで各自履修登録を行います。なお、情報端末操作方法は、「学内情報システム操作マニュアル」を参照してください。

この手続を行わずに授業に出席し、試験を受けても単位を修得することはできません。

履修登録の流れや方法をしっかり理解し、各自確実に履修登録を行ってください。

2. 履修登録の流れ



3. 履修取消期間

履修登録を行い、約1ヶ月間授業を受けてみて、当初の目的が達成される見込みがない等の理由がある場合には、この期間中に履修登録を取り消すことができます。履修の取消には、「履修取消届」の提出が必要です。

これは、履修放棄による「不可」評価でGPA数値(「6 成績評価」参照)が低下することを防ぐための措置として設けているものです。

4. 履修登録の注意事項

履修できない科目

- ・履修登録をしていない授業科目
- ・既に単位を修得した授業科目
- ・授業時間帯が重複する授業科目(隔週開講科目除く)
- ・先修条件のある科目で、履修希望者がその条件を満たしていない場合

通年開講科目

前期開講科目は前期、後期開講科目は後期にそれぞれ履修登録を行うのが原則です。ただし、通年開講科目の場合は、前期に履修登録を行うと後期は自動的に履修登録が行われます。

実習科目・集中講義科目

曜日・時限毎に登録する画面の下に、集中講義と実習の項目がありますので、忘れずに登録を行ってください。

配当年次と履修時期

授業科目には履修できる年次の制限(開講年次)があり、自分の年次と同じ、又は下位の開講年次の授業科目は履修できますが、上位の開講年次の授業科目は履修できません。

再履修

単位の修得が認められなかった科目は、他の履修希望科目との時間割が重複しない場合に限って、後年に再履修することができます。

科目の追加・変更

履修取消期間における履修取消を除き、履修登録確認期間終了後の科目の追加や変更は認められません。

5. 国際文化学科クラス指定科目の履修登録

国際文化学科の英語科目、基礎演習Ⅰ・Ⅱ及び日本語表現Ⅰは、所属するクラスがあらかじめ指定されています。学部棟掲示板や担当教員に確認のうえ、指定されたクラスの開講曜日・時限の各科目を履修登録してください。**指定外の開講曜日・時限で授業に出席した場合、単位を修得することはできません。**

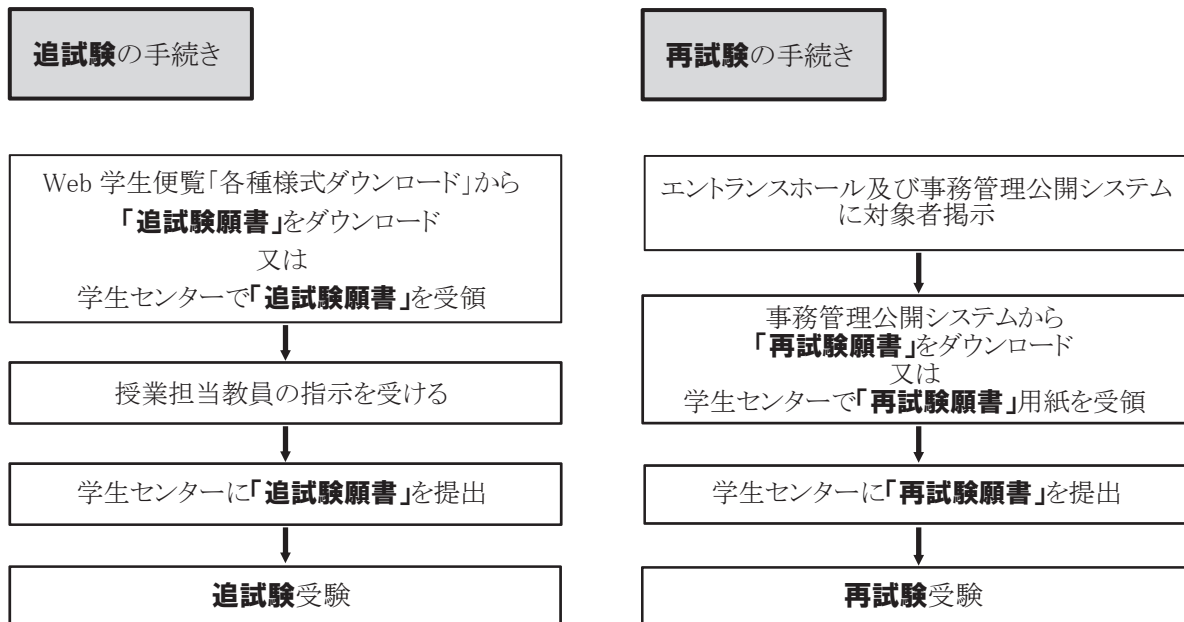
5 試験

1. 試験の種類

期末試験・ 随時試験	期末試験は、概ね授業最終日に実施されます。ただし、授業の担当教員が必要と認めたときは随時試験が行われ、これをもって期末試験の代わりとすることがあります。
追試験	所定の試験に欠席した者に対する試験。原則として行わないが、病気その他やむを得ない事情がある場合に限り、願い出により追試験を受けることができます。
再試験	試験を受験して不合格になった者に対する再度の試験。原則として行わないが、やむを得ない事情により教授会で認められた場合には、願い出により再試験を受けることができます。

2. 追試験・再試験の手続き方法

追試験および再試験の手続きは、それぞれ以下のように行います。



3. 試験の方法

試験は、筆記、口述、レポート提出、実技、実習等により行われます。

4. 受験上の注意

- 履修登録をしていない授業科目の受験は認められません。
- 試験の受験に際しては、学生証を机上に提示してください。
- 試験において**不正行為**をした者は、学則による懲戒処分を受けるほか、当該学期の成績「不可」の措置があります。

不正行為の取扱い

試験における不正行為とは、次に掲げる行為をいいます。

- (1) 試験監督者の指示や注意に従わないこと。
- (2) 代人として受験すること、又は、代人に受験させること。
- (3) 試験解答用紙を交換すること。
- (4) カンニング・ペーパー及びそれに類するメモ類等の用意、又は、それらを使用すること。
- (5) 所持品、身体、机、壁等に解答及びそれに類するものを書き込むこと。
- (6) 使用が許可されていない書籍、ノート等を使用すること。
- (7) 使用が許可されている書籍、ノート等を貸借すること。
- (8) 解答を写させること、又は、写しとること。
- (9) 他人の解答を盗み見ること。
- (10) 声、動作等で解答を伝達すること、又は、伝達を受けること。
- (11) 作成者の許諾の有無に係わらず、他人が作成したレポートを盗用し、自分の文章として提出すること。
- (12) レポートに出典を明記せずに、文献やインターネット、電子書籍の記述・内容をコピーし、レポートに利用すること。
- (13) 他人に依頼し、または他人の依頼を受けてレポートを作成すること。
- (14) その他、これに類する行為を行うこと。

6 成績評価

1. 成績評価の方法

成績は、試験の成績、平常の成績及び出席状況等を総合的に判断して評価されます。
評価方法は授業科目ごとに異なり、シラバスに記載されています。

2. 単位認定・成績通知

成績の評価は次のとおりです。合格した場合には所定の単位が与えられます。
成績について文書による通知は行いませんので、学期末に各自で事務管理公開システムにより確認してください。

◆評点を付す授業科目

評価	GP	評点	成績評価の定義	
合格	秀	4	90 点以上	目標を上回る特に優れた水準に達している。
	優	3	90 点未満 80 点以上	目標に関して十分な水準に達している。
	良	2	80 点未満 70 点以上	目標に関して事前に想定される標準的な水準に達している。
	可	1	70 点未満 60 点以上	目標に関する基本的な水準に達している。
不合格	不可	0	60 点未満	目標に関する基本的な水準に達していない。

※「GP」は「グレードポイント」の略であり、「GPA」の算定のために利用されます。

◆評点を付さない授業科目

ごく例外的に特別な事情がある場合のみ、合格または不合格の評価を行うことがあります。

成績評価	評点
合格	60 点以上相当の評価
不合格	60 点未満相当の評価

3. GPA制度

GPA(Grade Point Average)制度は、主に米国の大学で一般的に行われている成績評価方法の一種で、学生ごとの履修科目の成績の平均を数値により表すものです。

GPAは「学期 GPA」、「年度 GPA」、「通算 GPA」の3種類が算定されます。学生自身の成績が具体的な数値として表されるため、自主的な履修計画や学修目標の設定に利用することが可能となります。

また、自分の成績が学部内でどの程度の位置にいるのかを把握する目安とするため、学期ごとに学部別の通算GPAの平均値を学内ホームページで公開します。

GPAの計算

学期GPA	年度GPA
$\frac{\text{(当該学期に評価を受けたGPA対象科目で得たGP} \times \text{当該科目の単位数)の合計}}{\text{当該学期に評価を受けたGPA対象科目の単位数の合計}}$	$\frac{\text{(当該年度に評価を受けたGPA対象科目で得たGP} \times \text{当該科目の単位数)の合計}}{\text{当該年度に評価を受けたGPA対象科目の単位数の合計}}$
通算GPA	
$\frac{\text{(在学中に評価を受けた全GPA対象科目で得たGP} \times \text{当該科目の単位数)の合計}}{\text{在学中に評価を受けたGPA対象科目の単位数の合計}}$	

GPA対象科目

GPA算出の対象となる科目は、学部毎に異なります。授業科目一覧で確認してください。

GPAの通知

学期末の成績通知と同時に、事務管理公開システムにより確認することができます。

4. 既修得単位の認定

本学に入学する前に大学等において履修した授業科目について修得した単位は、本学における授業科目の履修により修得した単位として認められることがあります。この場合、既修得単位認定申請書に所定の書類を添えて学生センターに提出する必要があります。

認定できる単位数には、下記のとおり上限が定められています。

	修得単位認定上限
岩手県立大学	60 単位
岩手県立大学盛岡短期大学部	30 単位
岩手県立大学大学院	15 単位

なお、岩手県立大学四年制学部の3年次への編入学生に対する既修得単位の認定は、別に定められています。

7 卒業及び学位

2年以上在学し所定の単位数を修得した学生には卒業が認定され、次の学位が授与されます。

学科	学位
生活科学科	短期大学士(生活科学) Associate of Science
国際文化学科	短期大学士(国際文化) Associate of Arts

8 他学科(専攻)履修

本学では、学修の幅を広げるため、所属する学科(専攻)に指定されていない他学科(専攻)の授業科目(実験及び実習科目等を除く)の履修を認めています。

1. 履修できる科目

開講科目は、シラバスに掲載されています。

また、各授業科目には履修できる年次の制限(開講年次)があり、履修できるのは原則として自分の年次と同じ開講年次の授業科目、及び下の開講年次の授業科目に限られます。

2. 申請方法

各学期の履修登録期間に配布する募集要項を参照の上、「他学科(専攻)授業科目履修申請書」の必要事項を記入し、学生センターに提出してください。

申請には、授業担当教員の許可及び所属学科専攻の担当教員等の指導が必要な場合がありますので、募集要項をよく確認の上、申請してください。

なお、申請は各学期の履修登録期間中に受け付けます。

3. 単位認定

他学科(専攻)で修得した単位は、自由聴講科目として認定され、所属学科(専攻)の卒業要件単位には算入されません。

4. 注意事項

履修決定後でも、教室の収容人数の都合等により決定を取り消すことがあります。

9 岩手県立大学間単位互換制度

本学の学生は、「岩手県立大学間単位互換制度」により、岩手県立大学(四大)及び宮古短期大学の授業を、申請により履修することができます。修得した単位は、自由聴講科目として本学で修得したものと認定されます。

1. 学生の身分

本学の学生が岩手県立大学(四大)及び宮古短期大学の授業科目を履修する場合は**派遣学生**、岩手県立大学(四大)及び宮古短期大学の学生が本学の授業科目を履修する場合は**特別聴講学生**となります。

2. 出願資格

出願時において1年生から2年生に在学している学生が出願することができます。出願にあたっては、事前に教務担当教員に相談してください。

3. 授業料等

入学科、授業料、検定料は無料です。

4. 履修できる科目

開講科目は、シラバスに掲載されています。

また、各授業科目には履修できる年次の制限(開講年次)があり、履修できるのは原則として自分の年次と同じ開講年次の授業科目、及び下の開講年次の授業科目に限られます。

ただし、特別な事情がある場合は、自分の年次より上の開講年次の授業科目を履修できることがありますので、事前に学生センターに相談してください。

5. 出願方法

各学期の履修登録期間中に配布する「岩手県立大学間特別聴講学生募集要項」をよく読んで、手続きを行ってください。定員を超えた応募があった場合は、先着順となります。

出願書類	● 特別聴講学生志願書 1通 ● 派遣学生願 1通
出願期間	各学期履修登録期間
書類提出先	本学学生センター

6. 受講許可

履修時期	受講許可通知時期
前期	5月下旬
後期	10月下旬

選考結果は、本学学生センターから通知します。ただし、選考により、受講許可されなかった場合には、当該通知以前に受講した事実については無効となります。

7. 単位認定

この単位は自由聴講科目として認定され、卒業要件単位には算入されませんので注意してください。

8. 成績表示

岩手県立大学(四大)及び宮古短期大学部で修得した単位は、本学で修得した単位と区別するため、成績証明書中において「認定」と表示されます。

9. 注意事項

- 科目ごとに定められた定員を超えた場合には、履修できない場合があります。
- 原則として「特別聴講学生志願書」提出後の履修希望科目の変更はできません。確実に履修可能な科目のみを選択してください。

10 語学科目における単位認定

本学が実施する以下の海外研修は、申請により本学における修得単位として認定されます。

◆本学が実施する海外研修

コース	本学における授業科目および認定単位数
中国語・中国文化コース	「中国語・中国文化Ⅰ」「中国語・中国文化Ⅱ」のうちいずれか2単位
韓国語・韓国文化コース	「ハングル・韓国文化Ⅰ」「ハングル・韓国文化Ⅱ」のうちいずれか2単位
スペイン語・スペイン文化コース	「スペイン語・スペイン語圏文化Ⅰ」「スペイン語・スペイン語圏文化Ⅱ」のうちいずれか2単位

申請方法

学期	申請期限	提出書類	提出場所
前期	8月末日	● 単位認定申請書 1通 ● 各試験結果通知書(海外研修の場合には研修修了証)の写し 1通	学生センター
後期	1月末日		

成績表示

語学における修得単位認定に係る成績は、成績表中の評価欄に「合認」と表示されます(GPA算出の対象にはなりません)。

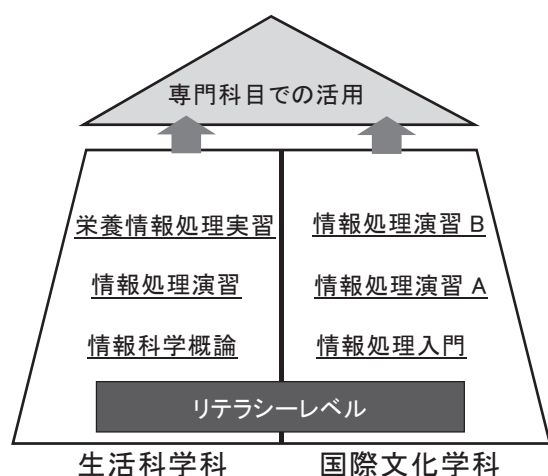
単位認定結果

単位が認定された場合は、申請月の翌月末に「単位認定通知書」により通知します。

11 文理融合データサイエンス教育

数理・データサイエンス・AI は、今後のデジタル社会の基礎知識であり、すべての学部生が身につけておくべき素養ととらえ、本学では「文理融合データサイエンス教育プログラム」によって、大学における学び・研究や、将来の仕事・生活に役立つ数理・データサイエンス・AI の知識・技術を体系的に学びます。短期大学部に在学中には、すべての学生が身につけるべき基礎的な「リテラシーレベル」を学修し、四大に編入学することで「応用基礎レベル」を学修することができます。

1) プログラムの科目編成と学修目標



リテラシーレベルの学修目標

- 数理・データサイエンス・AIが社会でどのように活用されているのか理解し、自らの専門分野の学びに活用することができるための基礎的素養を身につける。

2) プログラムの修了要件

学 科	対応科目	リテラシーレベル修了要件	
		必 修	選 択
生活科学科	情報科学概論	2 単位	
	情報処理演習		選択 1 単位以上
	栄養情報処理実習		
国際文化学科	情報処理入門	2 単位	
	情報処理演習 A		選択 2 単位以上
	情報処理演習 B		

3) 履修上の留意点

- ・教育プログラムへのエントリーは必要ありません(受講科目ごとの履修登録は必要です)。
- ・リテラシーレベルを修了した場合、成績証明書にその旨が明記されます。
- ・四大へ編入学したのち、応用基礎レベルを修了するためには、四大の1～4年生を対象とした応用基礎レベル対応科目を履修する必要があります。なお、四大の科目については、短期大学部に在学中にも履修することができます(岩手県立大学間単位互換制度を利用)。
- ・四大の応用基礎レベルでは、リテラシーレベルの発展的な内容を学ぶために、「データサイエンス応用 I・II」などが開講されます。

12 キャリア教育

卒業後には社会に出て様々なフィールドで活躍することを想定して入学してきているみなさんにとって、大学は専門知識や能力を学び深め、更には研究するとともに、実社会で活躍するため基礎的・汎用的に必要な意識や能力にも磨きをかける最終段階、ということもできます。

本学で開講している科目のうち、その役割を大きく担っている科目を本学の「キャリア教育」として提示します。みなさんにもその意識と目的を持ってこれらの科目を履修することを勧めます。

1 岩手県立大学のキャリア教育

岩手県立大学における「キャリア教育」は、それぞれの分野・テーマの学修・探究のなかで「社会の中で自分の役割を果たし、自分らしい生き方を実現させること」も意図し、以下のいずれかの「基礎的・汎用的能力」を育てるものとしています。

能力	内容
①人間関係形成・ 社会形成能力	多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができる。 自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働することができる。
②自己理解・ 自己管理能力	自分の価値観と将来的な可能性について肯定的に理解することができる。 自分の思考や感情をコントロールし、今後の成長のために主体的に学び、行動することができる。
③課題対応能力	社会における理想状態を想定することができ、現状とのギャップとなる問題を発見・分析することができる。 問題から様々な具体的課題を設定し、習得した知識・スキルを用いて、自らが実現可能で適切な計画を立て、その課題を処理・解決することができる。
④キャリア プランニング能力	働くことの意義を理解し、働くことに自らの価値を見出すことができる。 多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用し主体的に判断して自らのキャリアを形成できる。

2 該当科目一覧

各学部で学ぶ専門知識・能力を社会の中で発揮できるよう、キャリア教育も初年次から段階的に準備されています。

基盤教育	初年次必修	➔	看護	看護教育論、看護キャリア論、看護管理論
	大学で学ぶ・大学を学ぶ 基礎教養入門Ⅰ 基礎教養入門Ⅱ 選択 いわて創造学習Ⅰ いわて創造学習Ⅱ いわて創造実践演習 人間と職業 キャリア地域学習		社会福祉	ソーシャルワーク入門、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ケア論、保育原理、経営学、ソーシャルワーク論Ⅱ、児童福祉論Ⅱ、福祉工学、人間関係論（産業・組織心理学）、生活支援方法論、介護福祉演習Ⅰ、ユニバーサルデザイン論、地域福祉調査実習、コミュニティ福祉サービス実習、臨床ソーシャルワークの展開、生涯発達アセスメント法、育児支援論、障害者ケア論、認知症ケア論、生涯発達支援研究法、生涯発達支援実習、現代福祉特講B、介護福祉演習Ⅱ
盛岡短期	キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ		ソフトウェア情報	スタディスキルズ、キャリアデザインⅠ、プロジェクト演習Ⅰ、インターンシップⅠ、キャリアデザインⅡ、プロジェクト演習Ⅱ、システムデザイン論、システムデザイン実践論、システムデザイン PBL、インターンシップⅡ、情報と職業
			総合政策	キャリア・デザインⅠ、キャリア・デザインⅡ、キャリア・デザインⅢ、法律・行政実習A、法律・行政実習B、経済実習、経営実習、地域環境調査実習A～E、共通調査実習、インターンシップ

Ⅲ 授業科目一覽表

1 生活科学科

(令和3年度以前の入学生は、担当教員の一部変更を除き、入学年度に配布された授業科目一覧表が適用されます。)

■ 共通科目 (各専攻共通)

共通科目は、生活科学科専攻の基幹となる科目を学び、さらに、社会生活を送るうえで必要である豊かな人間性と幅広い教養を身につけると共に、さまざまな学問分野の学び方に触れ、それを専門分野の学修に応用できるように配慮しています。また、専門科目の理解に資する観点も加味し、人間、生活、文化、社会との関連性を重視するとともに、健康で豊かな人生を創造していくうえでの知識や技術を身につけ、心身の健康を養い、情報化の進展に対応した教育を行います。

授業科目	担当教員氏名 (非)=非常勤講師	単位数		GPA 対象	時間 数	週配当時間				卒業要件 単位数		
		必修	選択			1		2				
						前期	後期	前期	後期			
基礎科目	生活科学概論 ※オムニバス	鈴木真歩 佐藤恭子 川崎雅志 長坂慶子	2		○	30	2				必修6単位修得	
	情報科学概論	佐々木淳(非)	2		○	30	2					
	キャリアデザインⅠ	高瀬和実(非) 盛岡短期大学部教員	1			30	2					
	キャリアデザインⅡ	高瀬和実(非) 盛岡短期大学部教員	1			30		2				
小計			6	0		120	6	2	0	0		
教養科目	哲学の世界	井澤清一		2		○	30	2			必修1単位を含め 7単位以上修得	
	文学の世界	須藤宏明(非)		2		○	30	2				
	歴史と文化	菅田慶信(非)		2		○	30		2			
	芸術の世界	長谷川誠(非)		2		○	30			2		
	生活と法	吉原秋		2		○	30	2				
	心理の世界	桐田隆博(非)		2		○	30			2		
	生活の化学	千葉俊之(非)		2		○	30	2				
	生命と科学	吉田元(非)		2		○	30	2				
	人間関係論	未定		2		○	30			2		令和4年度は開講せず
	消費者保護論	窪幸治(非)		2		○	30	2				
	文化人類学	原英子		2		○	30	2				
体育実技	井上一彦(非)	1			○	30		2				
小計			1	22		360	14	4	4	2		
外国語関係科目	英語Ⅰ	小川春美(非) 小川修平(非)	2			○	30	2			必修4単位を含め4 単位以上修得	
	英語Ⅱ	小川春美(非) 小川修平(非)	2			○	30		2			
	英語Ⅲ	多田信哉(非)		2		○	30			2		
	英語Ⅳ	多田信哉(非)		2		○	30			2		
	フランス語・フランス文化Ⅰ	熊本哲也(非)		2		○	30	2				
	フランス語・フランス文化Ⅱ	熊本哲也(非)		2		○	30		2			
	ドイツ語・ドイツ文化Ⅰ	Uwe Richter(非)		2		○	30	2				
	ドイツ語・ドイツ文化Ⅱ	Uwe Richter(非)		2		○	30		2			
	中国語・中国文化Ⅰ	リン・ウモウ(非)		2		○	30	2				
	中国語・中国文化Ⅱ	リン・ウモウ(非)		2		○	30		2			
	ハンブル・韓国文化Ⅰ	姜奉植(非)		2		○	30	2				
	ハンブル・韓国文化Ⅱ	姜奉植(非)		2		○	30		2			
	スペイン語・スペイン語圏文化Ⅰ	三宅禎子(非)		2		○	30	2				
	スペイン語・スペイン語圏文化Ⅱ	三宅禎子(非)		2		○	30		2			
ロシア語・ロシア文化Ⅰ	コロボフ・ドミトリ(非)		2		○	30	2					
ロシア語・ロシア文化Ⅱ	コロボフ・ドミトリ(非)		2		○	30		2				
小計			4	28		480	14	14	2	2		
共通科目合計			11	50		960	34	20	6	4	必修11単位を含め 17単位以上修得	

(注)外国語科目のいずれかのⅡを履修するためには、その外国語科目のⅠを履修していることが必要である。
また、「英語Ⅲ」を履修するためには「英語Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得しておく必要がある。

■ 専門科目
《生活デザイン専攻》

授業科目	担当教員氏名 (非)=非常勤講師	単位数		GPA 対象	建築士 資格指 定科目 受験	時間 数	週配当時間				卒業要件 単位数		
		必修	選択				1年		2年				
							前期	後期	前期	後期			
基礎専門科目	生活と経済	新田 義修(非)		2	○		30		2			必修13単位を 含め23単位以 上 修 得	
	人間と社会	三須田 善暢		2	○		30		2				
	社会福祉論	松溪 智恵(非)		2	○		30	2					
	環境科学	未 定		2	○		30				2		
	基礎造形	鈴木 真歩	1			○	30	2					
		高橋 幸男(非)											
	服飾文化論	佐藤 恭子		2	○		30				2		
	ファッションと健康	齋藤 愛	2		○		30				2		
	食環境論	食物栄養学専攻教員	2		○		30				2		
	住文化論	鈴木 真歩	2		○	○	30	2					
	基礎数理	大澤 朋子		2		○	30	2					
		内田 信平											
	基礎製図Ⅰ	内田 信平	1		○	○	30	2					
	基礎製図Ⅱ	内田 信平		1	○	○	30		2				
	情報処理演習	佐々木 淳(非)	1		○		30		2				
情報統計学	大澤 朋子		2	○		30		2					
老年学	小田切 宏恵(非)	2		○		30		2					
色彩とデザイン	齋藤 愛	2		○		30	2						
小 計		13	15			480	12	12	0	8			
専門科目	卒業研究	生活デザイン専攻全教員	4		○		60			2	2	集中講義 必修22単位を 含め28単位以 上 修 得	
	ファッション造形	佐藤 恭子	2		○		30	2					
	ファッション造形実習Ⅰ	佐藤 恭子		1	○		45		3				
	ファッション造形実習Ⅱ	佐藤 恭子		1	○		45			3			
	ファッション造形応用演習	大橋 寛子(非)		1		○	30			1			
		佐藤 恭子											
	テキスタイルデザイン論	齋藤 愛	2		○		30	2					
	テキスタイルデザイン演習	齋藤 愛		1	○		30				2		
	住宅の施工と積算	小山 公一(非)		2	○	○	30				2		
	建築法規Ⅰ	永井 昌(非)		2	○	○	30				2		
	建築法規Ⅱ	永井 昌(非)		2	○	○	30				2		
	ユニバーサルデザイン論	齋藤 愛	2			○	○	30		2			
		鈴木 真歩											
	建築環境工学Ⅰ	未 定	2		○	○	30				2		
	建築環境工学Ⅱ	未 定		2	○	○	30				2		
	住宅の計画	内田 信平	2		○	○	30		2				
	地域の計画	三宅 諭(非)		2	○	○	30		2				
	建築設備	未 定		2	○	○	30				2		
	建築構造力学	大澤 朋子		2	○	○	30				2		
	建築構造力学演習	大澤 朋子		1	○	○	30				2		
	住宅の構造	大澤 朋子	2		○	○	30		2				
	建築材料	大澤 朋子		2	○	○	30				2		
	建築構造・材料実験	大澤 朋子		1	○	○	30				2		
建築構造・材料演習	内田 信平		1	○	○	30				2			
インテリアデザイン論	鈴木 真歩	2		○	○	30		2					
インテリアデザイン演習	鈴木 真歩		1	○	○	30				2			
CADⅠ演習	内田 信平		1	○	○	30		2					
CADⅡ演習	内田 信平		1	○	○	30				2			

(注)・「CADⅡ演習」を履修するためには「基礎製図Ⅰ」および「CADⅠ演習」を、「建築環境工学Ⅱ」を履修するためには「建築環境工学Ⅰ」を、「建築構造力学演習」を履修するためには「建築構造力学」を、「インテリアデザイン論」を履修するためには「基礎製図Ⅰ」を、「インテリアデザイン演習」を履修するためには「基礎製図Ⅰ」および「インテリアデザイン論」を、「基礎製図Ⅱ」を履修するためには「基礎製図Ⅰ」を各々履修していることが必要である。

・「ファッション造形実習Ⅱ」を履修するためには「ファッション造形実習Ⅰ」を、「ファッション造形応用演習」を履修するためには「ファッション造形実習Ⅰ」を各々履修していることが必要である。

授業科目	担当教員氏名 (非)=非常勤講師	単位数		GPA 対象	建築士 資格 指定 科目	時間 数	週配当時間				卒業要件 単位数
		必修	選択				1年		2年		
							前期	後期	前期	後期	
専門科目	住宅設計演習Ⅰ		2	○	○	45			3		
	住宅設計演習Ⅱ		2	○	○	45				3	
	西洋・近代建築史		2	○	○	30			2		
	近代意匠論	2		○		30		2			
	岩手のくらしと工芸	2		○		30				2	
小計		22	32			1020	4	17	25	21	
専門科目合計		35	47			1500	16	29	25	29	必修35単位を 含め51単位以上 修得

(注)「住宅設計演習Ⅰ」を履修するためには「住宅の計画」および「基礎製図Ⅰ・Ⅱ」を、「住宅設計演習Ⅱ」を履修するためには「住宅設計演習Ⅰ」を各々履修していることが必要である。

■ 卒業要件

《生活科学科生活デザイン専攻》

区分	配当	卒業要件単位数		
	単位数	必修	選択	計
共通科目	61	11	6	17
基礎専門科目	28	13	10	23
専門科目	54	22	6	28
合計	143	46	22	68

■ 二級建築士及び木造建築士受験資格取得に関わる指定科目

(令和2年3月1日以後)

指定科目一覧

規程科目及び規程単位数 建築士法第15条第一号から第三号に規定する国土交通大臣の指定する建築に関する科目(指定科目)	本学における科目名及び単位数		受験資格取得に必要な単位数		
	授業科目の名称	単位数			
		必修		選択	
①建築設計製図	①住宅設計演習Ⅰ		2	要件3単位以上	
	①住宅設計演習Ⅱ		2		
	①CADⅡ演習		1		
	①基礎製図Ⅱ		1		
	②～④建築計画、建築環境工学又は建築設備	②住宅の計画	2		2
②住文化論	2				
②西洋・近代建築史			2		
③建築環境工学Ⅰ	2				
③建築環境工学Ⅱ			2		
⑤～⑦構造力学、建築一般構造又は建築材料	④建築設備		2	要件3単位以上	
	⑤建築構造力学		2		
	⑤建築構造力学演習		1		
	⑥住宅の構造	2			
	⑦建築材料		2		
	⑦建築構造・材料実験		1		
	⑦建築構造・材料演習		1		
⑧建築生産 ⑨建築法規	⑧住宅の施工と積算		2	要件1単位以上	
	⑨建築法規Ⅰ		2		
	⑨建築法規Ⅱ		2		
⑩その他	⑩ユニバーサルデザイン論	2		要件適宜	
	⑩CADI演習		1		
	⑩インテリアデザイン論	2			
	⑩インテリアデザイン演習		1		
	⑩基礎製図Ⅰ	1			
⑩地域の計画			2		
①～⑨の単位数合計			33	要件10単位以上	
①～⑩の単位数合計			42	要件20単位以上	

必要な実務経験年数

	①～⑩の単位数合計	
試験時	20単位以上	0年

*合計20単位以上で、かつ、①～⑨の全ての分野について、それぞれに必要な単位数を修得している必要がある。

	①～⑩の単位数合計	
登録時	40単位以上	0年
(免許登録の際までに必要な年数)	30単位以上	1年
	20単位以上	2年

《食物栄養学専攻》

授業科目	担当教員氏名 (非)=非常勤講師	単位数		GPA 対象	栄養士 必修	時間 数	週配当時間				卒業要件 単位数			
		必修	選択				1		2					
				前期	後期	前期	後期							
基礎専門科目	生活と経済	新田義修(非)		2	○		30		2			必修6単位を含め 8単位以上習得 R4年度は開講せず		
	人間と社会	三須田善暢		2	○		30		2					
	環境科学			2	○		30				2			
	食生活論	諸岡みどり	2			○		30	2					
	食品有機化学	千葉俊之(非)	2			○		30	2					
	老年学	小田切宏恵(非)			2	○		30		2				
	食文化論 (岩手のくらしと食)	長坂慶子	2			○		30					2	
小計			6	8			210	4	6	0	4			
専門科目	社会生活と健康	社会福祉論	本間萌(非)		2	○	○	30	2			必修34単位を 含め40単位 以上修得 集中講義		
		公衆衛生学Ⅰ	相馬優樹(非)	2			○	○	30				2	
		公衆衛生学Ⅱ	千葉啓子(非)			2	○	○	30					2
		運動処方論	栗林徹(非)			2	○		30					2
		基礎統計学	相馬優樹(非)	2			○	○	30		2			
	人体の構造と機能	生化学Ⅰ	川崎雅志	2			○	○	30		2			
		生化学Ⅱ	川崎雅志			2	○	○	30				2	
		解剖生理学	佐藤匡(非)	2			○	○	30		2			
		解剖生理学実験	川崎雅志 英士貴			1	○	○	45					3
		運動生理学	栗林徹(非)	2			○	○	30				2	
	食品と衛生	健康管理概論	立身政信(非)			2	○	○	30					2
		食品学Ⅰ	笹田怜子	2			○	○	30	2				
			長坂慶子	2			○	○	30		2			
		食品学実験Ⅰ	笹田怜子			1	○	○	45		3			
			英士貴			1	○	○	45					3
		食品学実験Ⅱ (食品加工を含む)	笹田怜子 英士貴			1	○	○	45					3
		食品加工学	笹田怜子	2			○	○	30					2
	食品衛生学	笹田怜子	2			○	○	30	2					
	栄養と健康	食品衛生学実験	笹田怜子 英士貴			1	○	○	45					3
		基礎栄養学	川崎雅志	2			○	○	30	2				
			加藤哲子	2			○	○	30	2				
栄養学実験		川崎雅志			1	○	○	45	3					
		英士貴			1	○	○	45		3				
応用栄養学実習		加藤哲子 岩本佳恵			1	○	○	45		3				
臨床栄養学Ⅰ		加藤哲子	2			○	○	30		2				
	高橋和真(非) 遠藤龍人(非)			2	○	○	30				2			
臨床栄養学実習	加藤哲子 岩本佳恵			1	○	○	45				3			

授業科目	担当教員氏名 (非)=非常勤講師	単位数		GPA 対象	栄養士 必修	時間 数	週配当時間				卒業要件 単位数		
		必修	選択				1		2				
							前期	後期	前期	後期			
栄養の指導	公衆栄養学	浅沼美由希	2		○	○	30				2	卒業要件 単位数	
	栄養教育論	浅沼美由希	2		○	○	30		2				
	栄養指導論	浅沼美由希		2	○	○	30			2			
	栄養教育・指導実習	英 士 貴			1	○	○	45			3		
		浅沼美由希			1	○	○	45					3
専門科目 給食の運営	調理学	長坂慶子	2		○	○	30	2					
	調理学実験	長坂慶子		1	○	○	45		3				
		岩本佳恵											
	調理学実習Ⅰ	諸岡みどり		2	○	○	90	3	3				
		松本絵美											
	調理学実習Ⅱ	長坂慶子		1	○	○	45			3			
		岩本佳恵											
	調理学実習Ⅲ	長坂慶子		1	○	○	45				3		
	給食管理論	諸岡みどり		2	○	○	30		2				
	給食管理実習Ⅱ (学外)	給食管理演習	諸岡みどり		2	○	○	45			2		
給食管理実習Ⅰ (学内)		諸岡みどり		1	○	○	45				3		
		松本絵美											
諸岡みどり 加藤哲子 浅沼美由希 松本絵美 岩本佳恵				2	○	○	(90)				特		
卒業研究	食物栄養学専攻教員	4			○		60			2	2		
小計			34	35			1470 (90)	18	26	29	24		
専門科目合計			40	43			1680 (90)	22	32	29	28	必修40単位 を含め48単 位以上修得	

(注)・給食管理実習Ⅱ(学外)を履修するためには、1年及び2年前期までの栄養士免許取得専門科目(必修科目)の単位が修得見込みであること。

・週配当時間中、「特」は、実習施設における校外実習である。

■ 卒業要件

《生活科学科食物栄養学専攻》

【参考】栄養士免許を取得し、卒業するために必要な単位数

区分	配当	卒業要件単位数		
	単位数	必修	選択	計
共通科目	61	11	6	17
基礎専門科目	14	6	2	8
専門科目	83	34	6	40
合計	158	51	14	65

区分	卒業要件単位数		
	必修	選択	計
共通科目	11	6	17
基礎専門科目	6	2	8
専門科目	34	33	67
合計	51	41	92

■ 栄養士免許取得専門科目

規定科目及び規定単位数			本学の専門科目及び単位数		
授業内容	単位数		科目名	単位数	
	講義又は演習	実験又は実習		講義又は演習	実験又は実習
社会生活と健康	4	4	社会福祉論	2	
			公衆衛生学Ⅰ	2	
			公衆衛生学Ⅱ	2	
			基礎統計学	2	
			社会生活と健康の小計	8	0
人体の構造と機能	8	4	生化学Ⅰ	2	
			生化学Ⅱ	2	
			解剖生理学	2	
			解剖生理学実験		1
			運動生理学	2	
			健康管理概論	2	
			人体の構造と機能の小計	10	1
食品と衛生	6	4	食品学Ⅰ	2	
			食品学Ⅱ	2	
			食品学実験Ⅰ		1
			食品学実験Ⅱ(食品加工を含む)		1
			食品加工学	2	
			食品衛生学	2	
			食品衛生学実験		1
食品と衛生の小計	8	3			
栄養と健康	8	10	基礎栄養学	2	
			応用栄養学	2	
			栄養学実験		1
			応用栄養学実習		1
			臨床栄養学Ⅰ	2	
			臨床栄養学Ⅱ(病理学を含む)	2	
			臨床栄養学実習		1
			栄養と健康の小計	8	3
栄養の指導	6	10	公衆栄養学	2	
			栄養教育論	2	
			栄養指導論	2	
			栄養教育・指導実習		1
			栄養情報処理実習		1
			栄養の指導の小計	6	2
給食の運営	4	10	調理学	2	
			調理学実験		1
			調理学実習Ⅰ		2
			調理学実習Ⅱ		1
			調理学実習Ⅲ		1
			給食管理論	2	
			給食管理演習	2	
			給食管理実習Ⅰ		1
			給食管理実習Ⅱ		2
			給食の運営の小計	6	8
	36	14	小計	46	17
	50		合計	63	

2 国際文化学科

(令和3年度以前の入学生は、担当教員の一部変更を除き、入学年度に配布された授業科目一覧表が適用されます。)

■ 基盤科目

授業科目	担当教員氏名 (非)=非常勤講師	単位数		GPA 対象	時間 数	週配当時間				卒業要件 単位数
		必修	選択			1年		2年		
						前期	後期	前期	後期	
教養科目	文学の世界	須藤 宏明(非)	2	○	30	2				必修2単位を 含め10単位 以上修得
	数理の世界	村木 尚文(非)	2	○	30		2			
	生活と経済	新田 義修(非)	2	○	30		2			
	人間と社会	三須田 善暢	2	○	30		2			
	生活と法	吉原 秋	2	○	30			2		
	地理学入門	吉木 岳哉(非)	2	○	30		2			
	心理の世界	桐田 隆博(非)	2	○	30			2		
	哲学の世界	井澤 清一	2	○	30	2				
	社会福祉論	松溪 智恵(非)	2	○	30			2		
	情報処理入門	樽松 理樹(非)	2	○	30	2				
体育実技	井上 一彦(非)	1	○	30		2				
小計		2	19		330	6	10	6	0	
キャリア科目	キャリアデザインⅠ	高瀬 和実(非)	1		30	2				必修2単位を 修得
		盛岡 短大部 教員								
	キャリアデザインⅡ	高瀬 和実(非)	1		30		2			
小計		2	0		60	2	2	0	0	
基盤科目合計		4	19		390	8	12	6	0	必修4単位 を含め12単位 以上修得

■ 専門科目

授業科目	担当教員氏名 (非)=非常勤講師	単位数		GPA 対象	時間 数	週配当時間				卒業要件 単位数	
		必修	選択			1年		2年			
						前期	後期	前期	後期		
基礎専門科目	文化人類学	原 英 子	2	○	30	2				必修22単位を 含め28単位 以上修得	
	ジェンダー論	熊本 早苗	2	○	30	2					
	近代社会論	小林 一穂(非)	2	○	30		2				
	多文化共生論	吉原 秋	2	○	30		2				
	コミュニケーション論	Hamish Smith	2	○	30			2			
	基礎演習Ⅰ	国際文化学科教員	2	○	30	2					
	基礎演習Ⅱ	国際文化学科教員	2	○	30		2				
	日本語表現Ⅰ	伊藤 博美	2		○	30		2			
		塩谷 昌弘(非)									
	日本語表現Ⅱ	山崎 薫(非)	2		○	30			2		
		河邊 邦博(非)									
	国際文化理解演習Ⅰ	熊本 早苗	2		○	30	2				
		Hamish Smith									
		Patrick Maher									
	国際文化理解演習Ⅱ	吉原 秋	2		○	30		2			
		熊本 早苗									
		Hamish Smith									
	総合英語Ⅰ-A	Patrick Maher	2		○	30	2				
		Hamish Smith									
	総合英語Ⅰ-B	井澤 清一	2		○	30	2				
		八重樫 由美(非)									
	総合英語Ⅱ-A	Hamish Smith	2		○	30		2			
		Patrick Maher									
総合英語Ⅱ-B	井澤 清一	2		○	30		2				
	末定										
総合英語Ⅲ-A	Hamish Smith	2		○	30			2			
	Patrick Maher										
総合英語Ⅲ-B	井澤 清一	2		○	30			2			
	高橋 愛(非)										
総合英語Ⅳ-A	Hamish Smith	2		○	30				2		
	Patrick Maher										
総合英語Ⅳ-B	井澤 清一	2		○	30				2		
	末定										
小計		22	16		570	12	14	8	4		

授業科目	担当教員氏名 (非) = 非常勤講師	単位数		GPA 対象	時間 数	週配当時間				卒業要件 単位数		
		必修	選択			1年		2年				
						前期	後期	前期	後期			
専門 共通	中国語・中国文化Ⅰ	リン・ウモウ(非)		2	○	30	2		2		必修2単位を 含め24単位 以上修得	
	中国語・中国文化Ⅱ	リン・ウモウ(非)		2	○	30		2		2		
	ハングル・韓国文化Ⅰ	姜 奉 植(非)		2	○	30	2		2			
	ハングル・韓国文化Ⅱ	姜 奉 植(非)		2	○	30		2		2		
	スペイン語・スペイン語圏文化Ⅰ	三宅 禎子(非)		2	○	30	2		2			
	スペイン語・スペイン語圏文化Ⅱ	三宅 禎子(非)		2	○	30		2		2		
	ドイツ語・ドイツ文化Ⅰ	Uwe Richter(非)		2	○	30	2		2			
	ドイツ語・ドイツ文化Ⅱ	Uwe Richter(非)		2	○	30		2		2		
	フランス語・フランス文化Ⅰ	熊本 哲也(非)		2	○	30	2		2			
	フランス語・フランス文化Ⅱ	熊本 哲也(非)		2	○	30		2		2		
	ロシア語・ロシア文化Ⅰ	コロボフ・ドミトリ(非)		2	○	30	2		2			集中講義 集中講義
	ロシア語・ロシア文化Ⅱ	コロボフ・ドミトリ(非)		2	○	30		2		2		
	アジア文化理解論	中尾 美知子(非)		2	○	30	2					
	西洋文化理解論	Hamish Smith		2	○	30	2					
	国際関係論	照井 悦幸(非)		2	○	30		2				
	国際経済論	松田 淳(非)		2	○	30			2			
	日本国憲法	吉 原 秋		2	○	30				2		
	文化交流史	Patrick Maher		2	○	30		2				
比較文化研究法	原 英 子		2	○	30			2				
比較文化演習	木村 敏明(非)		2	○	30				2			
専門 科目	西洋 文化	西洋の歴史	梶 さやか(非)		2	○	30	2			「西洋の文化と 思想A」又は「西 洋の文化と思想 B」のいずれか から2単位以上 修得すること。	
		西洋の文化と思想A	未 定		2	○	30	2				
		西洋の文化と思想B	熊本 早 苗		2	○	30		2			
		西洋文化研究法A	未 定		2	○	30			2		
		西洋文化研究法B	熊本 早 苗		2	○	30			2		
		西洋文化演習A	未 定		2	○	30			2		
		西洋文化演習B	熊本 早 苗		2	○	30			2		
		西洋社会論	吉 原 秋		2	○	30			2		
アジア 文化	アジアの歴史	高野 淳 一		2	○	30	2			「アジアの文化と 思想A」又は「ア ジアの文化と思 想B」のいずれ かから2単位以 上修得すること。		
	アジアの文化と思想A	原 英 子		2	○	30	2					
	アジアの文化と思想B	高野 淳 一		2	○	30		2				
	アジア文化研究法	高野 淳 一		2	○	30			2			
	アジア文化演習	高野 淳 一		2	○	30			2			
	アジア社会論	高野 淳 一		2	○	30			2			
	アジア社会論演習	木村 敏明(非)		2	○	30			2			
日本 文化	日本 文化	日本の歴史	誉田 慶信(非)		2	○	30	2			「日本の文化と 思想A」又は「日 本の文化と思想 B」のいずれか から2単位以上 修得すること。	
		日本の文化と思想A	伊 藤 博 美		2	○	30	2				
		日本の文化と思想B	三 須 田 善 暢		2	○	30		2			
		伝承文化論	伊 藤 博 美		2	○	30			2		
		日本文化研究法	伊 藤 博 美		2	○	30			2		
		日本文化演習	伊 藤 博 美		2	○	30			2		

授業科目			担当教員氏名 (非) = 非常勤講師	単位数		GPA 対象	時間 数	週配当時間				卒業要件 単位数
				必修	選択			1年		2年		
								前期	後期	前期	後期	
専門科目	日本文化	地域の歴史と社会	八木 光則 (非)		2	○	30	2				
		地域社会論	三須田 善暢		2	○	30			2		
		地域社会研究法	三須田 善暢		2	○	30			2		
		郷土の文学	塩谷 昌弘 (非)		2	○	30			2		
		地域社会論演習	三須田 善暢		2	○	30				2	
	卒業研究	国際文化学科全教員		2		○	30				2	
小計				2	94		1440	30	22	34	34	
実践科目	通訳・翻訳法	Alan Farr (非)		2	○	30	2					
	検定英語演習	小川 修平 (非)		2	○	30		2			2	
	ビジネス英語	Patrick Maher		2	○	30			2			
	英語表現演習	Patrick Maher										
		熊本 早苗		1	○	30				1		
	情報処理演習A(応用Ⅰ)	片町 健太郎 (非)		2	○	30		2				
	情報処理演習B(応用Ⅱ)	山田 敬三 (非)		2	○	30		2				
	日本語表現演習	伊藤 博美										
		石杜 美弥子 (非)		1	○	30				1		
酒井 久美子 (非)												
ビジネス実務演習	田原 美晴 (非)		2	○	30		2					
小計				0	14		240	2	8	4	2	
専門科目合計				24	124		2250	44	44	46	40	必修24単位 を含め56単位 以上修得

(注) 外国語科目のいずれかのⅡを履修するためには、その外国語科目のⅠを履修していることが必要である。

また、「キャリアデザイン」「基礎演習」、「国際文化理解演習」、「日本語表現」についても、Ⅱを履修するためにはⅠを履修していることが必要である。

■ 卒業要件

区分		配当	卒業要件単位数		
		単位数	必修	選択	計
基盤科目	教養科目	21	2	8	10
	キャリアデザイン科目	2	2		2
基礎専門科目		38	22	6	28
専門科目		96	2	22	24
実践科目		14		4	4
合計		171	28	40	68

IV 履修登録下書き表

履修登録下書き表【記入例】

◆基本的な時間割の組み方◆

授業科目一覧表で自分の年次に開講される科目を確認し、時間割を見ながら次の手順に従って時間割を埋めていきます。科目選択の際は、必ずシラバスに目を通し授業内容を確認してください。

手順①必修科目を入れます。

手順②空いているところに選択科目を入れます。

※卒業要件単位数や各自が目指す資格取得に必要な科目を十分に確認してください。

1 年 生 前 期

←
 ・科目名
 ・単位数
 を書き入れましょう。

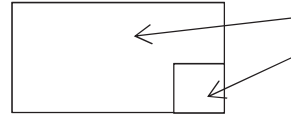
	月	火	水	木	金
1 時限	手順② 西洋文化理解論 2	手順② アジアの文化と思想A 2		手順① 総合英語 I - A 2	
2 時限	手順② 日本の歴史 2		手順② 西洋の歴史 2	手順① 情報処理入門 2	手順② 中国語・中国文化 I 2
3 時限	手順② アジア文化理解論 2	手順① 総合英語 I - B 2		手順① 基礎演習 I 2	手順② 西洋の文化と思想A 2
4 時限		手順② 日本の文化と思想A 2	手順① キャリアデザイン I 1	手順② 国際文化理解演習 I 2	手順② ジェンダー論 2
5 時限	手順② 地域の歴史と社会 2		手順① キャリアデザイン I -		
集中講義・ 実習など					

合計単位数
31
単位

時間割を全て組み終わったら、履修登録をしましょう！

履修登録下書き表

年生 期



・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

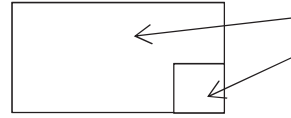
集中講義・ 実習など					



合計単位数
単位

履修登録下書き表

年生 期



・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

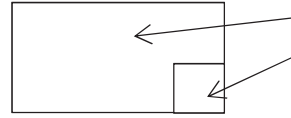
集中講義・ 実習など					

Web学生便覧
QRコード

合計単位数
単位

履修登録下書き表

年生 期



・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

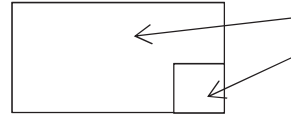
集中講義・ 実習など					

Web学生便覧
QRコード

合計単位数
単位

履修登録下書き表

年生 期



・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					



合計単位数
単位



岩手県立大学

岩手県立大学盛岡短期大学部

〒020-0693 岩手県滝沢市巢子152-52

TEL 019-694-2000(代) FAX 019-694-2001(代)

ホームページアドレス <https://www.iwate-pu.ac.jp>